

作業学校の施設と經營

花卉  
紫雲英

十月

行事	指導獎勵事項	備考
稻作實習地調査 同立毛 審査 麥種、選種、冷水溫湯 浸法 共同施行 巡回指導	麥種、鹽水選、湯法 蔬菜栽培 稻の收穫乾燥 稻の採種拔穗 麥作改良 施肥、整地	冷水溫 男子部授業大體十 八日までとする 播種

播種	移植	收穫	管理	其の他の要事
二年子大 根 蠶豆	苺 壬生菜 たかな	蠶 芋 薯類	稻採種 甘藍手入 蔬菜園手入	麥種子交換 鹽水選、溫湯浸法、穗選 晚秋蠶收穫後蠶室

十一月

豌豆 大麥	大小豆 果 甘藷 落花生 柿 稻	果樹園手入 孟宗竹林手入	蠶具の消毒洗滌
----------	---------------------------------	-----------------	---------

行事	指導獎勵事項	備考
稻作實習地坪刈成績考 査 蔬菜實習地成績調査 巡回指導	麥作改良 粗乾 調製、俵裝、改良農具使用 一毛作田排水利用	男子部出席三日間

播種	移植	收穫	管理	其の他の要事
麥 葱頭	雲臺 大根	落花生	冬野霜除(切藁 散布)	林樹種子採收 防寒裝置

第四 作業學校と農業實習地

作業学校の施設と經營

行	事	指導獎勵事項	備考
	蕎麥 油菜 樹木	燕菁 牛蒡 菠薐草 (至三月) 蕎麥(同) 苜蓿 葱 薯蕷	米調製、依裝 麥中耕、施肥土入 果樹の落葉 袋紙燒却 桑樹結束 耕耘施肥
			漬物製造 伐木(薪炭、用材) 間伐、枝打 農具整理 業務整理 新計劃立案 副業精勵

十二月

行	事	指導獎勵事項	備考
	農産物品評會 (青年團農會聯合) 家庭實習地成績發表 研究帳、實習日誌提出	裏作手入 麥の施肥手入 紫雲英田排水 副業獎勵 農産加工 養鷄	本月より三月迄女子部の指導に力を注ぐ

播種	移植	收穫	管理	其の他の要事
	甘藍 葱頭 蕎麥 油菜 樹木	苧 大根 燕菁 牛蒡 菠薐草 蕎麥 葱 薯蕷	紫雲英防寒 (切藁散布) 冬野菜防寒 米調製、依裝 麥中耕、施肥土入 果樹の落葉袋紙燒却 桑樹結束 耕耘施肥	家畜、家禽飼料に留意 防寒裝置 抱卵 漬物製造 伐木(薪炭、用材) 間伐、枝打 農具整理 業務整理

一月

行	事	指導獎勵事項	備考

第四 作業学校と農業實習地

作業学校の施設と経営

酒造出稼者通信教授  
在村男子の指導

土地改良  
排水、耕地整理  
農作肥培  
副業  
藁製品、其他農作加工

播種	移植	收穫	管理	其の他の要事
		牛蒡 人参 水菜 葱 蒨 蒨	蠶豆、豌豆等の手入 果樹園、桑園等の冬耕 梅の接木	農具修繕、新調 溜池、溝渠、農道改修、排水工事、田負請 柴刈り 山林撫育 竹伐採(本月中) 副業奨励

二月 月

二月播種一月と同じ。指導奨励一月と同じ。

播種	移植	收穫	管理	其の他の要事
梅 栗 茶	甘藍 葱 果樹 植込 桑新植 補植	冬野菜	蠶豆、豌豆、麥の中耕、施肥、培土 果樹剪定	土工事業 温備床準 一毛作田苗代耕起 畦畔・落葉等焼却 介殼虫驅除 柴刈 山林撫育 副業精勵

三月 月

行事	指導奨励事項	備考
二月と同じ 春蒔蔬菜種苗共同購入 本學年度行事整理 來學年度事業計劃	温床、冷床の作製及び管理 果樹剪定 果樹驅蟲劑調製 桑の植栽及び手入	

第四 作業学校と農業實習地

樹苗育成

播種	移植	收穫	管理	其の他の要事
溫床に下種 茄子 胡瓜 南瓜 甘藷 トマト 蕎麥 馬鈴薯 春蒔花卉	葱	壬生菜 蒞陵草 蕎麥	麥、蠶豆、豌豆等の手入 苗代耕起 桑園耕鋤驅除 果樹冬期剪定 果樹植栽 樹苗床替植栽	冷床準備

14、作業学校に於ける生産加工講座

一、目的

主として、郷土民及び實業補習學校生のために之を施し、小學校のみの作業主義でなく、本講座を通じて、郷土の産業を革新することになり、所謂新教育說である郷土教育等と合致することにもなる。

二、講座内容

(一) 桑細工加工講座

(1) 目的

郷土に於いて年々使用する俵、繻、番、其の他桑製品は、少くもその村民に於て農閑期等を利用して調製することが必要である。

(2) 施設及び經營

最も多く奨励しつゝあるは、製俵、製繻、製筵、製品である。之がため、製繻機、製筵機、其の他の器械により調製しつゝあり。

(2) 竹細工加工講座

(1) 目的

第四 作業学校と農業實習地

郷土の殆んど致るところに竹林があり、併も尺以上の竹も珍しくないため竹細工を盛にする必要あるを考へ、本講座を開始す。中には自家用の籠さえも購入してゐるので、自家用のみならず商品として販路を開拓せしめた

(2) 施設及び経営

最初は、手近な、手籠、籾、其の他の捕獲器より始む。

(3) 漬物加工講座

(1) 目的

生活上必要な副食物の主なものゝ漬物である。この意味からして、各家庭に於て必要な漬物を製造せしめ又餘剰のものは、販賣せしめんとする。

(2) 経営

(イ) 鹹味漬物類——澤庵漬、淺漬

(ロ) 酸味漬物類——酢漬、アチャラ漬

(ハ) 酒精漬物類——奈良漬、粕漬

澤庵漬の製法

今四斗桶一本に對する配合量を示すと次の如くである。

乾燥程度	食用時期	食鹽	米糠	干大根數
下 乾	一月	二升	八升五合	百 本
	二月	二升五合	七升五合	百二十本
	三月	三升	七升	百五十本
中 乾	四月	三升五合	六升五合	百六十本
	五月	四升	六升	百八十本
	六月	四升五合	五升五合	百八十本
上 乾	七月	五升	五升	百八十本
	八月	六升	四升	二百十本
	九月以後	六升五合	三升五合	二百十本

(4) 醤油製造講座

(1) 目的

第四 作業学校と農業實習地

從來自家用として味噌はいづれの農家に於てもこれを製造し、食用に供するも醤油を自製せる農家は甚だ少い。目下疲勞せる農村を救済する一つの道は農産加工を副業として、實行せしめることであると信ずる。大抵の農家は高い醤油を購入し、その原料は低廉な價で販賣してゐる現状であるから、農家の經濟が豊になる道理がない。故に私は、自家用醤油の講座をなすことにより、醤油を醸造せしめ、その副産物たる醬油粕を家畜に供し、或は飼料に利用せしめたいと思ふ。

(5) 農産加工講座

(1) 青梅ピツクル漬

(イ) 方法

梅を青い時に採り、藁灰を被せ、少量の水を打ち一夜置いて、翌日出して洗ひ水氣をとり、硫酸鐵、硼酸をかけ、押し蓋及び重石をして一夜つけよく洗ひ壺に入れ、焼酎、砂糖をふりませ蓋を密閉しておく、一年中色が變らない。

(2) 青梅のエツキス

(イ) 梅エツキスは下痢止めによく、又腸に故障のあるものに少量づゝ飲用させるとよい。

(ロ) 方法

梅を洗つて、之を山葵卸しで擦り、壺に入れ砂糖、酒、鹽を加へてませ必ず一日に一回は攪拌して十日位たつてから、鹽を加へてませ合して、蓋に目貼をして三ヶ月程すればよい。味甘味で、胃腸に爽快なり。

(3) 苺の保色

(イ) 方法

苺を産のまま、鹽水で洗つて、之を籠にあげて水を切りおき、別に清水一升に枸椽酸、硼酸、砂糖を入れて沸かし、冷まし先の苺を壺に詰め、その汁を、ビター線にそゝぎ密閉して、なるべく冷暗な場所に貯へる。

(4) 青實山椒貯藏

青い山椒の實を、房のまま洗つて、別に、水、硫酸鐵、赤土、鹽を沸して冷まし、山椒

を壺に入れ、先の汁を入れて混ぜ蓋に目貼をして、よく乾いた暗い場所に貯へる。

(5) 甘露漬

夏大根を洗つて適宜に刻んで、楯に入れ、鹽をふりまぜて蓋をして、その上に二貫目位の重石を載せて、三日位漬けて水の上つたとき洗つて、水を斷り、もう一度楯に入れて、甘草末、砂糖をふりかけ押し蓋をして五百匁位の重石をのせる。

(6) 苺ゼリー

(7) 茄子の笹漬

(8) 青梅ビツクル甘露漬

(9) グリーンピース

(10) 以下略

(6) 染職講習會

廢物利用をなすため、兒童及び處女會員主婦會員等を集めて、廢物利用の染

職講習會を行ふ。

染料費としては大體左記の様である。

ネクタイ	一本	五錢
エリ	一ツ	五錢
クビマキ	一ツ	五錢
大人女ハカマ	一ツ	二十錢
子供ハカマ	一ツ	三十錢
洋傘	一本	四十錢
木綿	一反	五十錢
男ハカマ	一ツ	五十錢
子供スカート	一ツ	十五錢
兵子帯	一ツ	四十錢
子供服	一ツ	三十錢
毛糸シャツ	一枚	六十錢

- セル 一反 七十錢
- オーバ 一枚 一圓二十錢
- モス 一反 八十錢
- 洋服 一着 一圓五十錢
- トンビ 一枚 一圓五十錢

大體右の様な標準となる。

15、作業學校としての農業科施設

一、農業實驗用具

硝子棒	攪拌棒	桶	品目	數量	品目	數量	品目	數量
一	一	一組	比	一	比	一	比	一
二	四	一組	重	二	重	四	重	二
液量計	解剖器具	網杓子	液量計	一	解剖器具	一五	網杓子	一組

昆虫飼育箱	乾温計	植木鉢	品目	數量	品目	數量	品目	數量
五	一	三〇	寒	一	水耕試驗器	二	毒	二
一	三	探	暖	一	集	箱	箱	一
一	三	集	計	一	箱	箱	箱	一

二、氣象觀測用具

濕度計	普通寒暖計	品目	數量	品目	數量	品目	數量
一	三	液	一	量	一	計	一
一	一	計	一	計	一	計	一
一	一	計	一	計	一	計	一

三、測量用具

高測器	品目	數量	品目	數量	品目	數量
一	卷	一	尺	三	天	一
一	尺	三	三	天	一	一
一	三	一	三	天	一	一
一	三	一	三	天	一	一





七、養鶏用具

銚	剪定鉄	切出し	植木鉢	槌	荷車
一	三	二	大 二〇〇 小 三〇〇	二	一
竹	果樹用袋	篩	種子貯蔵箱	砥石	栽養土入箱
一〇〇	五〇〇	四	一	六	大 二
鋸	合羽蓑	尺	杭	芽接小刀	クマデ
		度	マ	一	六
			二〇	四〇	

八、養畜用具

品目	数量	品目	数量	品目	数量
巢箱	小 大 一 二	孵化箱	一〇	去勢器	一
傘形育雛器	一	給餌器	小 大 一〇 二	肥育箱	一
箱形育雛器	小 大 五 一	水入器	六	餌貯蔵箱	小 大 二〇 八

品目	数量	品目	数量	品目	数量
細羊剪毛鉄	一	獸類去勢器	一	水入器	五
餌入器	五	草架	一	蚊ヤリ器	一

## 第五 作業學校と家畜飼養

### 一 動物の飼育に關する施設

近時の新しい教育のことごとくが、皆一様に、兒童の勞作主義を高唱してゐる。併しながら、その殆んどが皆一齊に理論にのみ走つてその實際については述べないのはどうしたことか。

それは何を證明づけるものであらうか。

それは、教育實際家が理論にのみ走つて、その實際をうちすてたとも言ひ得られる故に本編においては、その實際の施設を、その經營を如何にすべきかを述べたい。

#### 1、兔 舎

一、兔を兒童は如何に見てゐるか。

(こゝに、兒童の作つた兔に關する文をかゝげておくことにする)

鳩舎の横にうつされて、急に廣くなつた小屋に兔も随分ふえました。

五六匹の親兔と、二十四あまりの小兔は、全生徒の人氣物です。おもちやのやうな小兔が、ひよいとはねたと言つては、喜び、自分の作つた穴にするくくとはいつて行く親兔を見ては、穴の中に住む兔の習性に今更驚くのです。

白い毛に赤い眼。雪兔の眼によく眞赤な南天の實をつかひますが、兔の眼はあんなに眞赤ではなく、もつとやはらかい自然な色をしてゐます。眞白な綿のやうな毛の中に眼ばかりさくろの實のやうにみづくくしく輝いてゐます。

ちよつとした物音にもすつと立つて、長い耳を、びんと立てるやうす、前足で顔をなでまはすやうす。餘念なく青草を食べたり、たはむれたりするやうすは、まるで繪を見てゐるやうです。

五年の人達が、まだ露をふくんだちゝ草や、たんぼゝを朝早く小屋の中に入れて食べさせてくれます、又きたなくなつたわらをしきかへたりして骨身おします、このかはいゝ兔の世話をしてをられます。

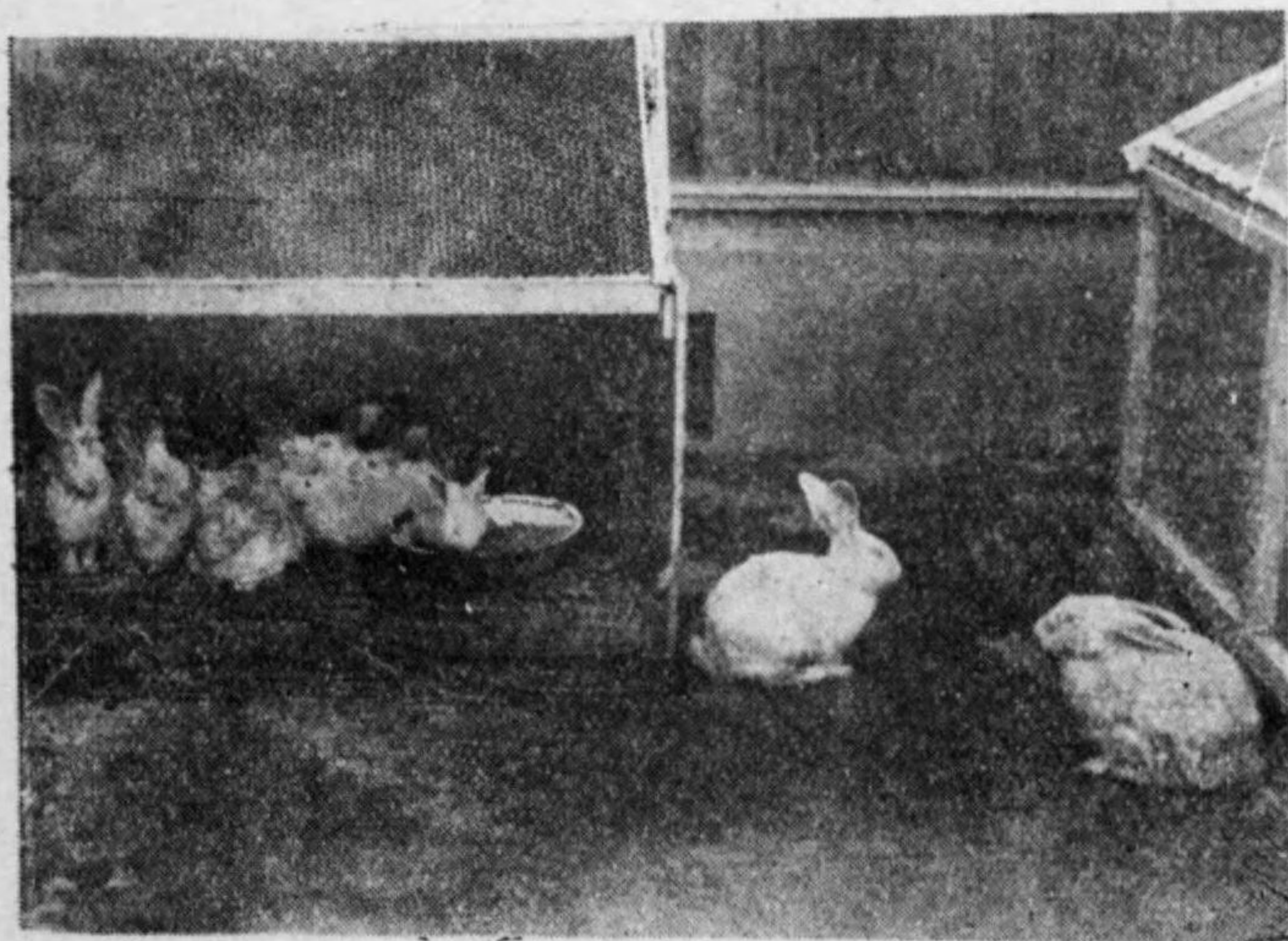
或る日の兎の日記に

「兎のお墓をたてゝやりました。」

と書かれてゐる所があります。それは次から次へと生れる小兎の中にかはいそうに、時々死ぬのがあります。當番の人はその冷くなつたなきがらをねんごろに、農場の隅に埋めて、心からめい福を祈るのです。お墓には花などのそなへてあるのをよく見うけます。

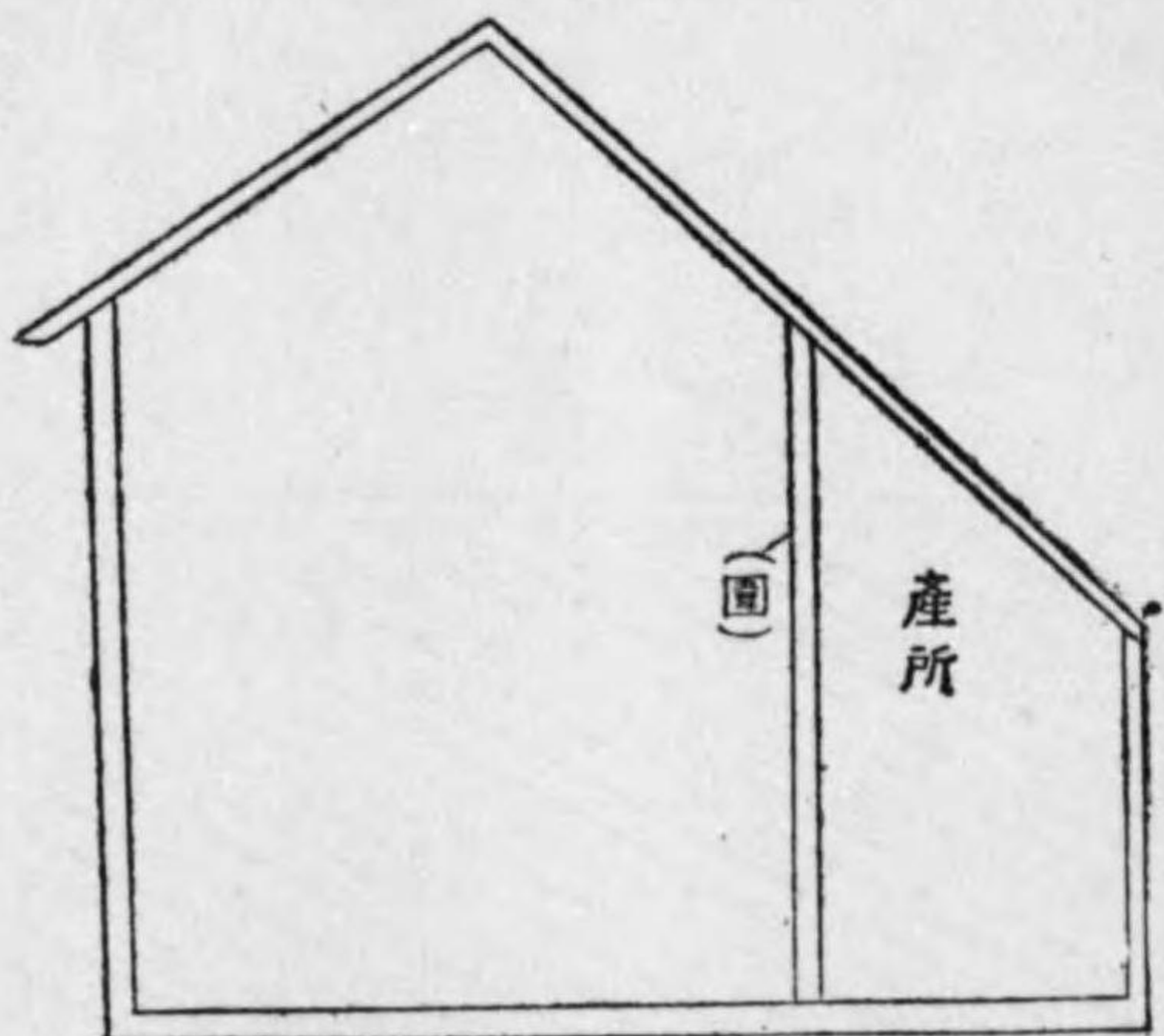
こんなによく行きとゞいた當番の人達の世話で兎は幸福さうにしてゐます兎の友達も之から益々ふえて行くでせう。

二、兎舎の施設

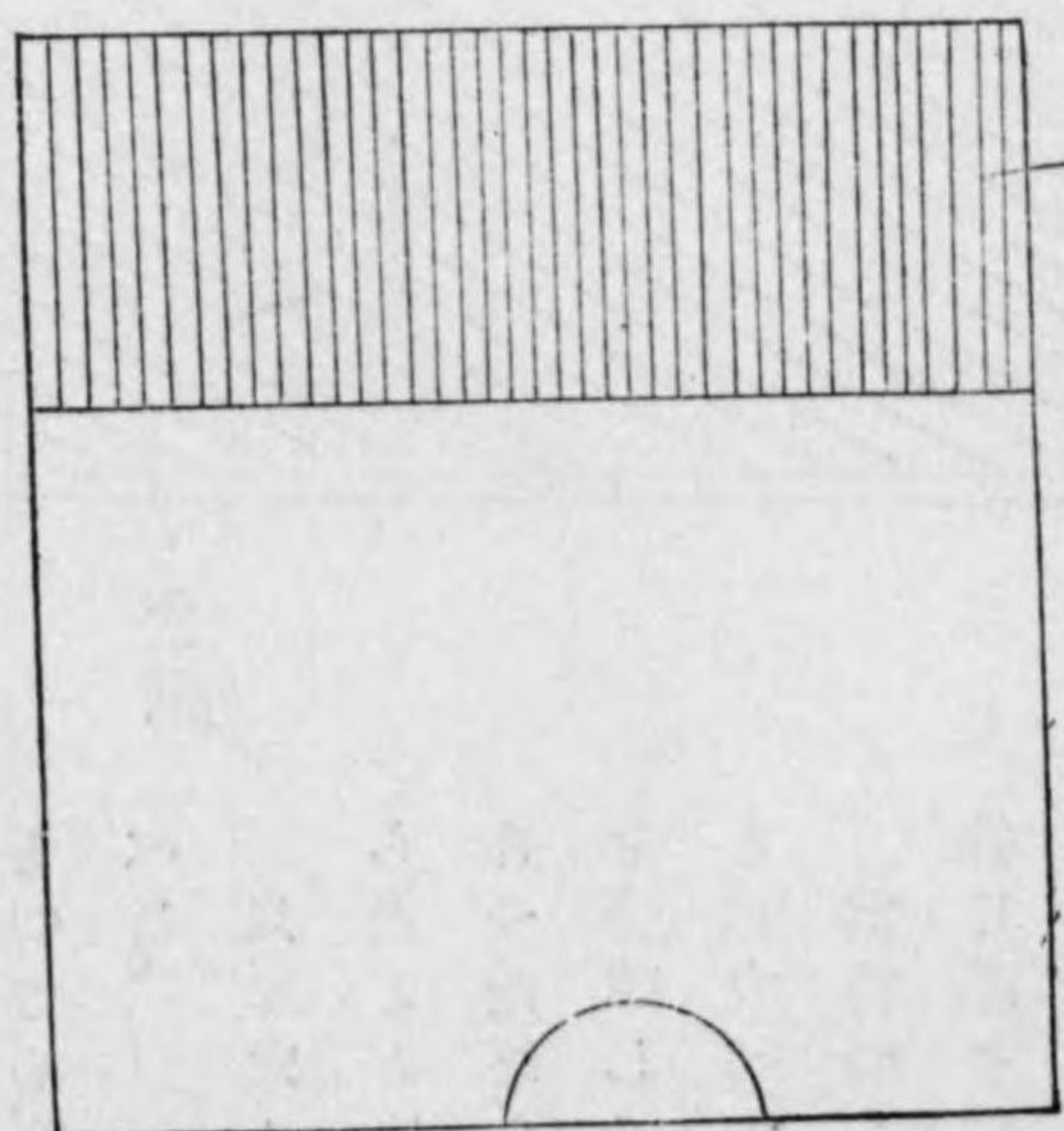


一九〇

(イ) 兎舎



(ロ) 圍の擴大圖

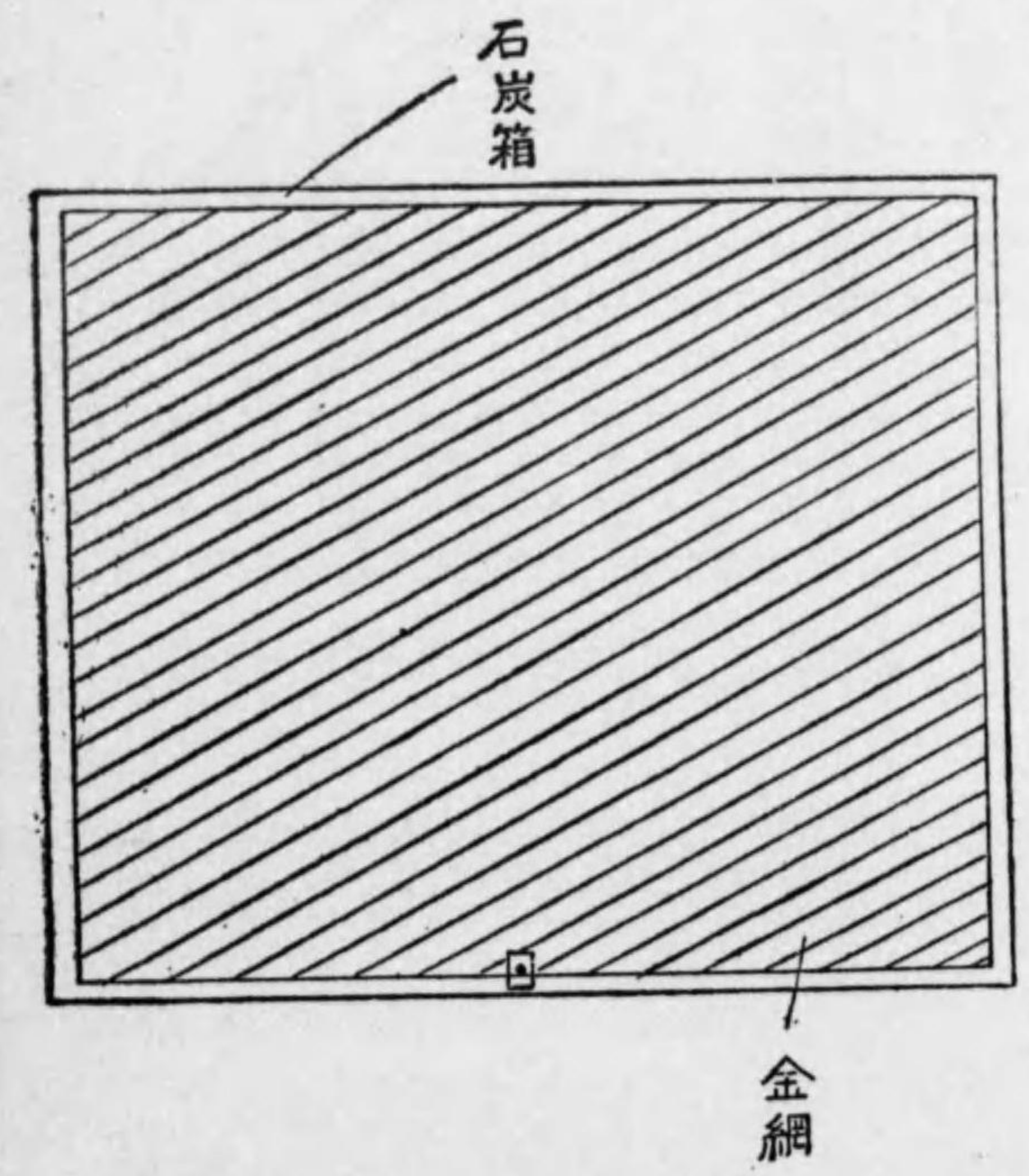


巢の出入口

三、兎舎の經營

學年は、尋常五年位のものゝが經營するのが適當かと思ふ。當番は四五名位が適當。

作業學校の施設と經營  
 (六) 雄の兔箱



飼料は、草をかつてきてやり、又どんなものでも喜んで喰べる。

只、考慮せねばならぬことは、成育しきつたならば、雄雌を分離しておくことが大切である。

當番のものに、當番日記を記入させる。

日記の内容は

概評	登校時刻	養 兔			長校
		計	子 兔	雌 兔	雄 兔
	時 分				昭和
					年
					月
					日
					番當
	退校時刻	項 事 番 當			
	時 分				

2、鳩 舎

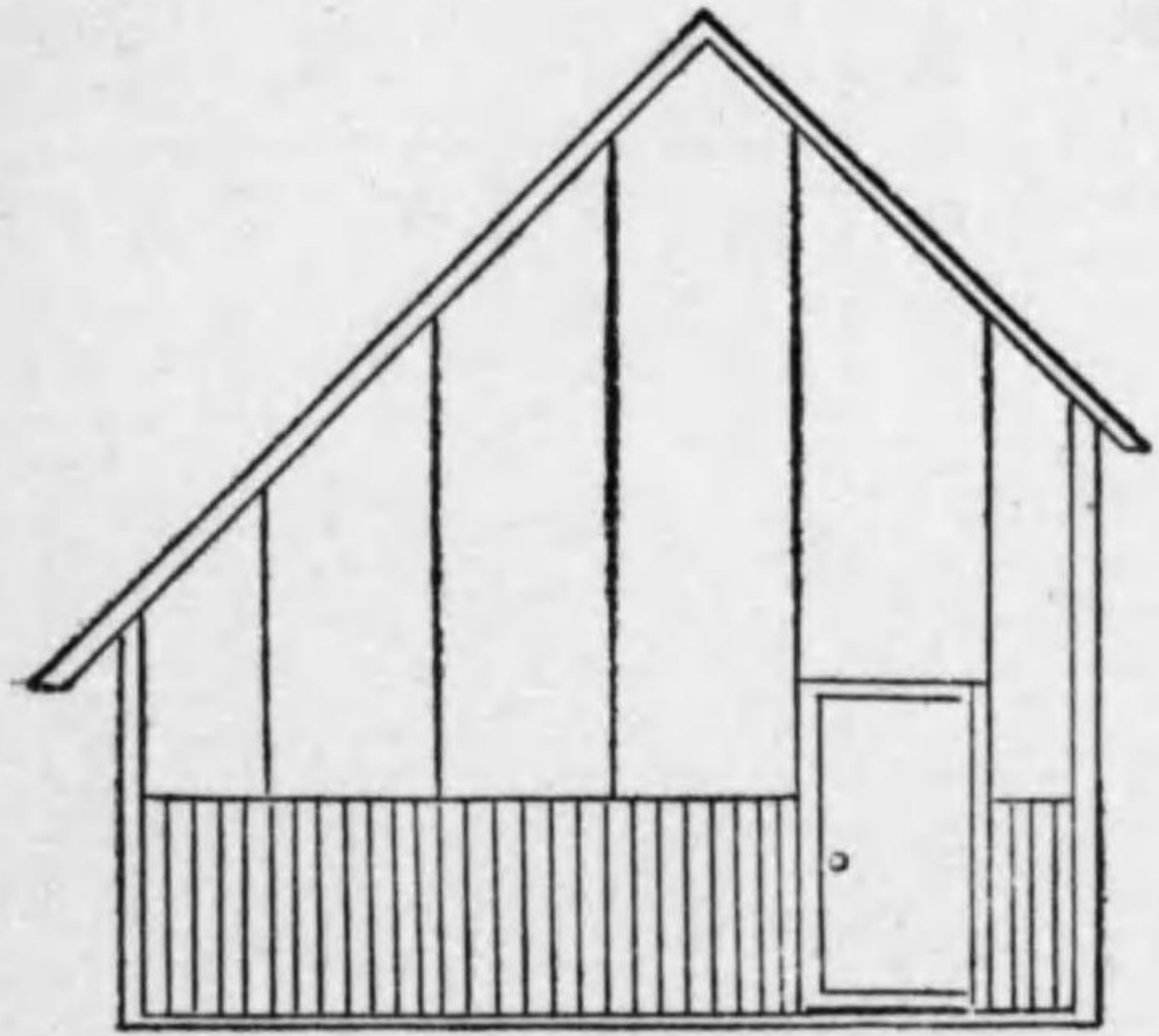
ハトボツボ、ハトボツボ

第五 作業學校と家畜飼養

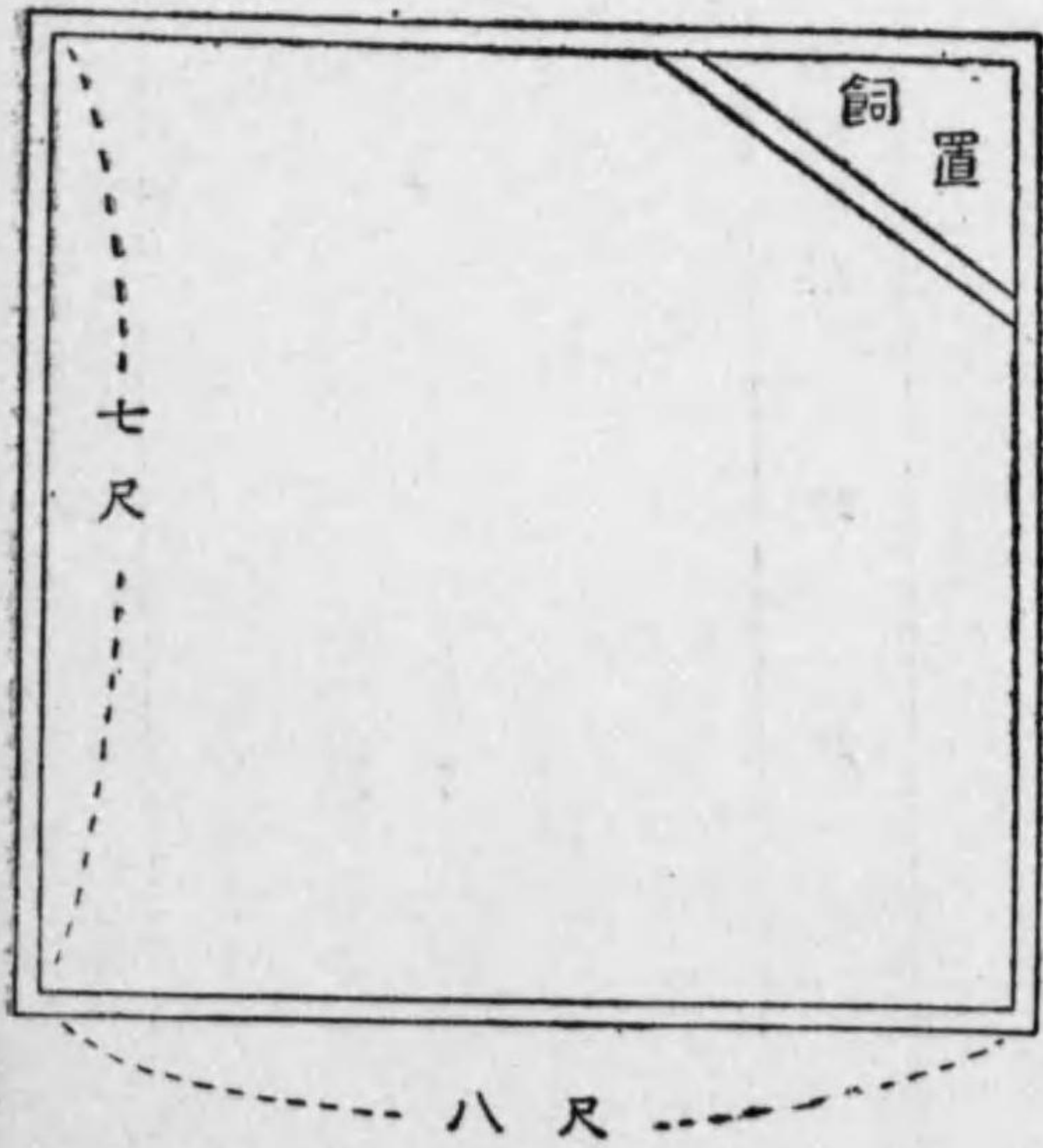
マメガホシイカ、ソラヤルゾ

等々、児童たちの生活から、とり去り得ない鳩。人なつかしそうな眼、子供達が行けば鳩舎からとんで出てうれしそうに其頭や、かたにと、飛んで来てとまる。

(イ) 横 面



(ハ) 前 面



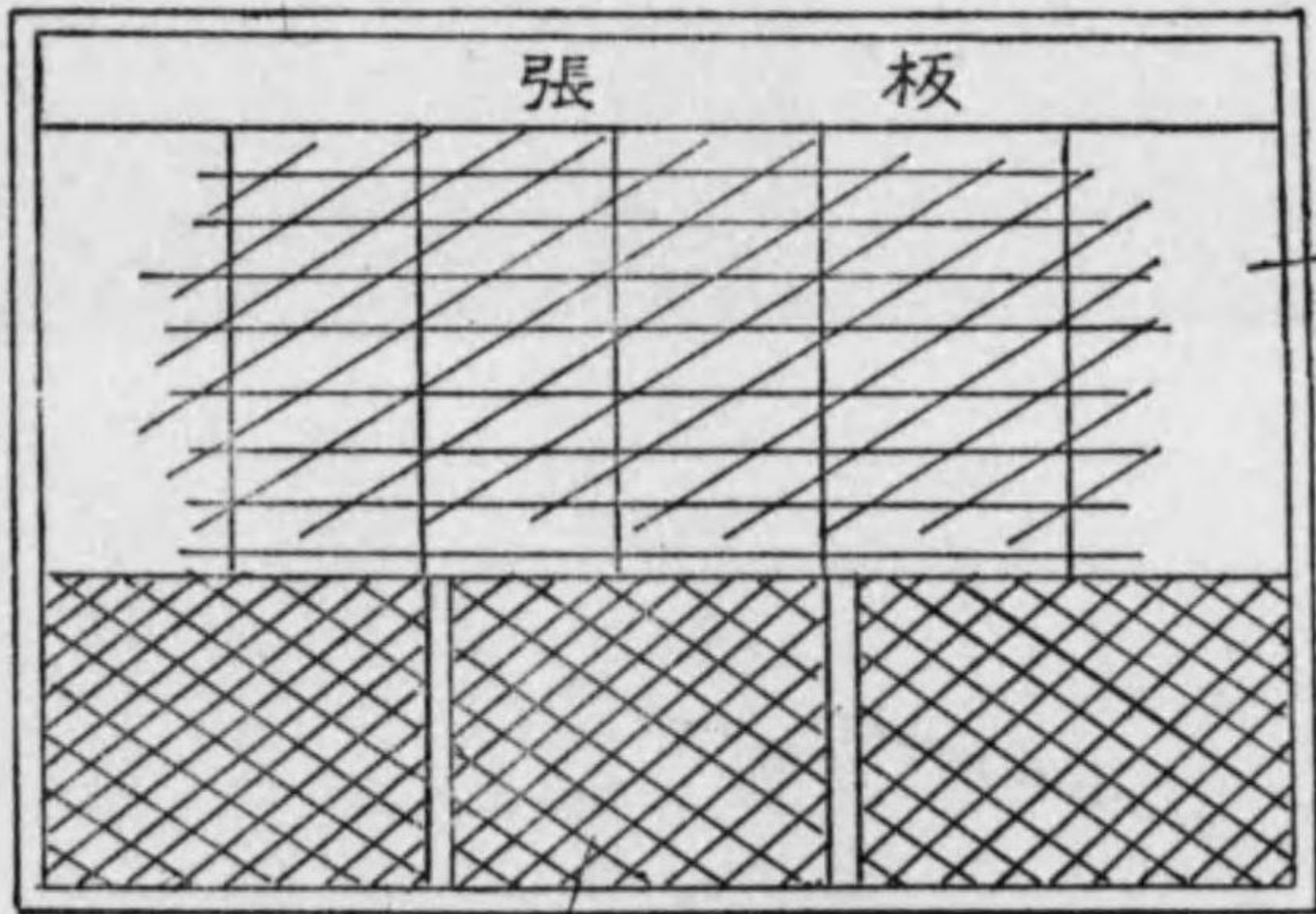
一、鳩舎の施設

鳩舎位は職員児童が共同してやれば、簡単に出来る。作ること夫れ自身勞作主義でもあると考へる。

3、鶏 舎

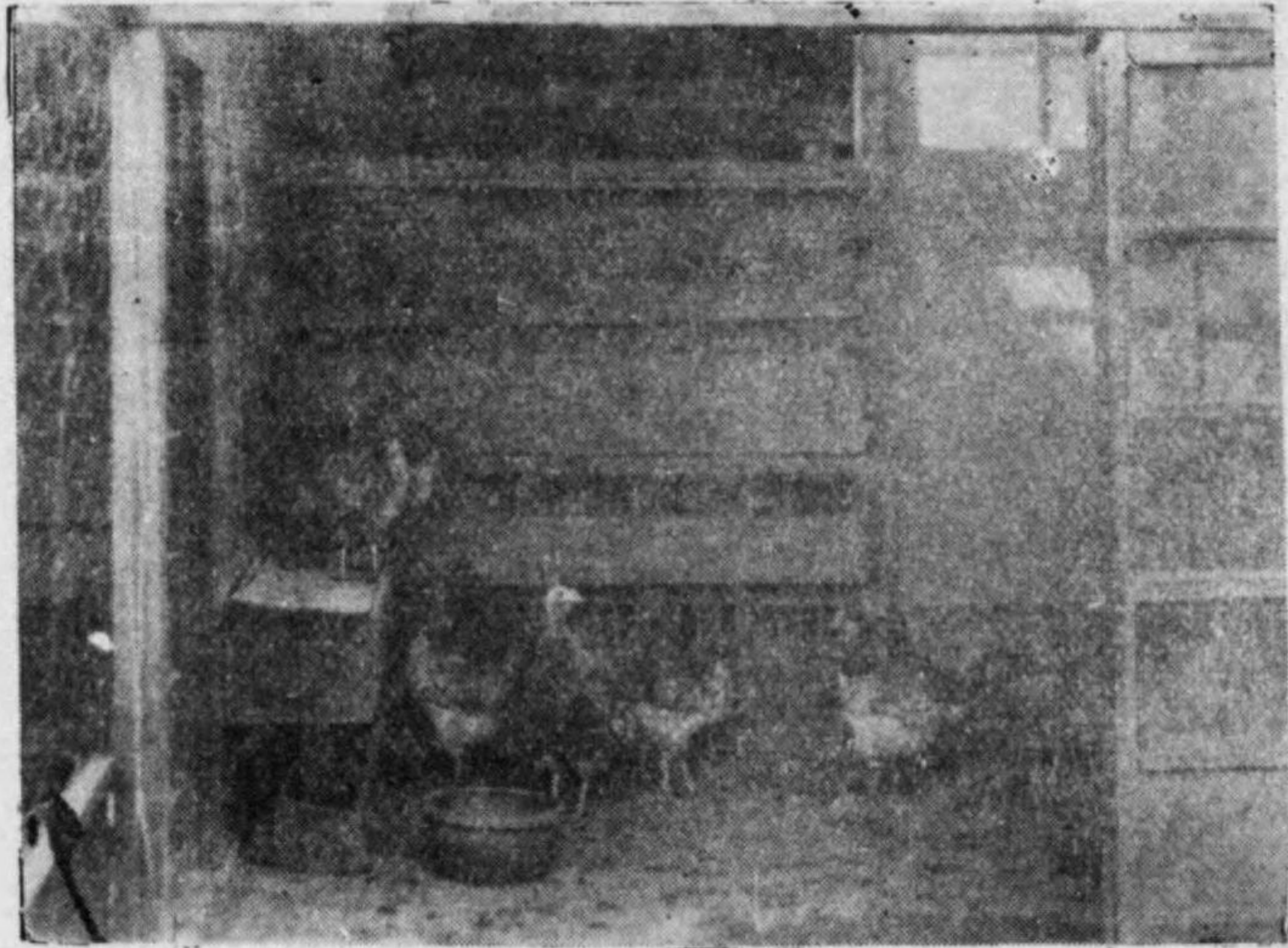
小學校の施設としては、鶏舎の坪数は、六坪位が適當かと思ふ。外に運動場八坪程に、飼養羽數は、百羽位までは充分やり得る。

(ロ) 内 面

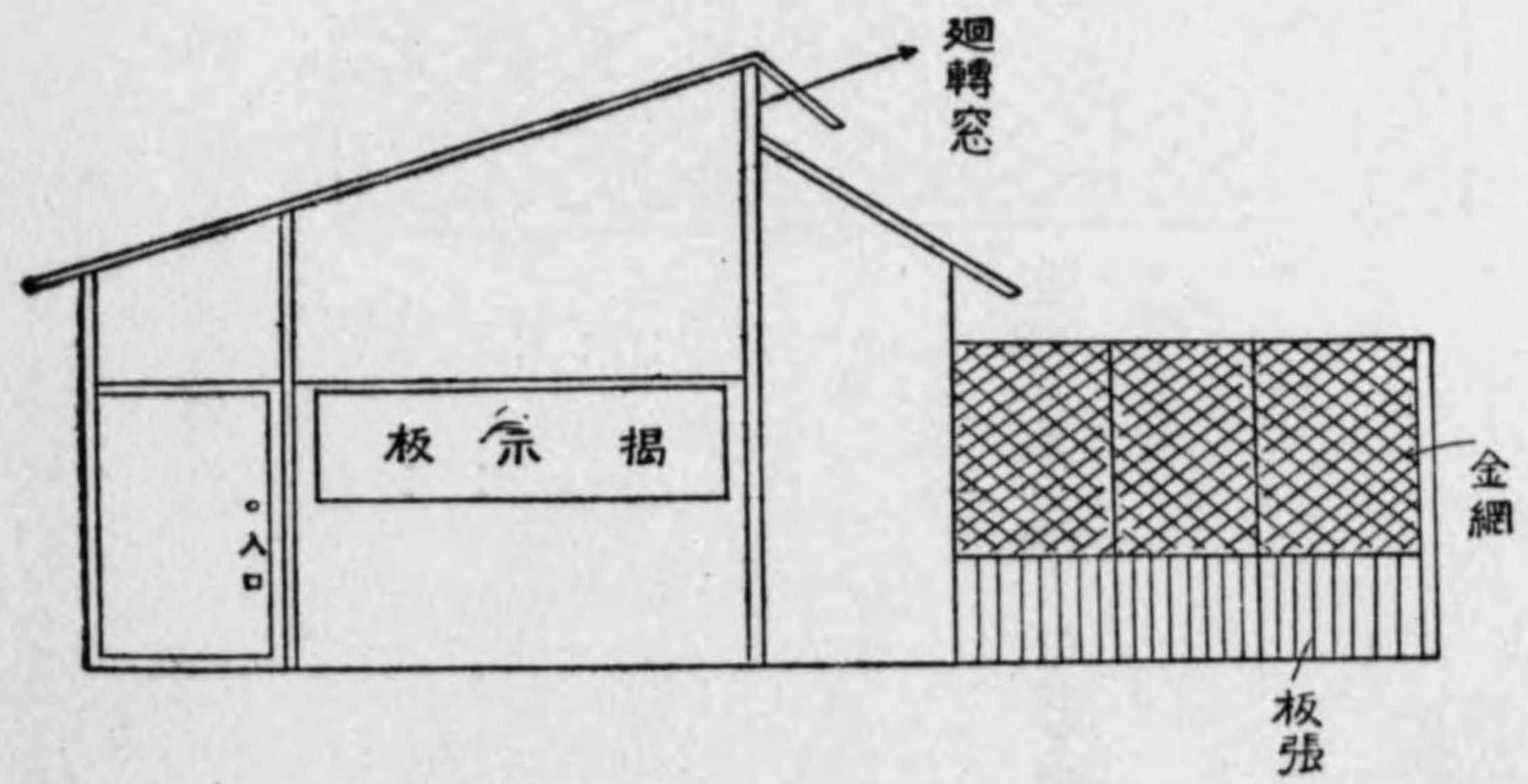
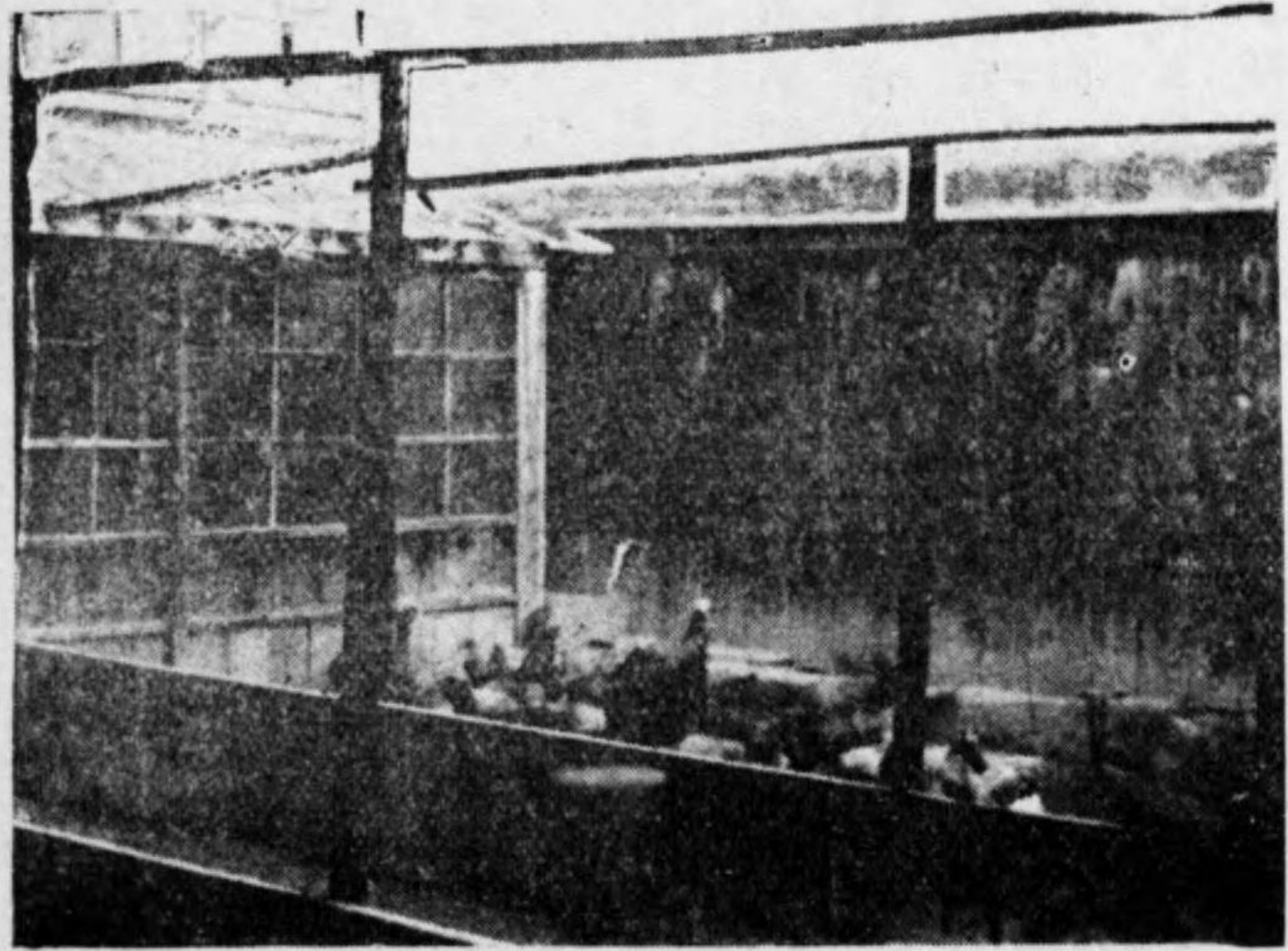


金網(目の荒い併も細い針金使用の)

金網(太い線の針金で細く)



- (1) 鶏舎の施設
- (イ) 横 面
- 掲示板には、鶏に關する色々の飼育上の注意をかき、常番に注意させる。又その日の天候によつて、廻轉窓の開閉をなすことも忘れてはならない
- (2) 鶏舎施設上の注意
- 1 なるべく兒童自身の手によつてなることを理想とする。
  - 2 出来るならば、南向か、或は東向の高燥なところを選ぶこと。
  - 3 學校の空地を利用すること。
  - 4 排水のよいところ、排水が不良であれば舍内がジメ／＼するが故に鶏



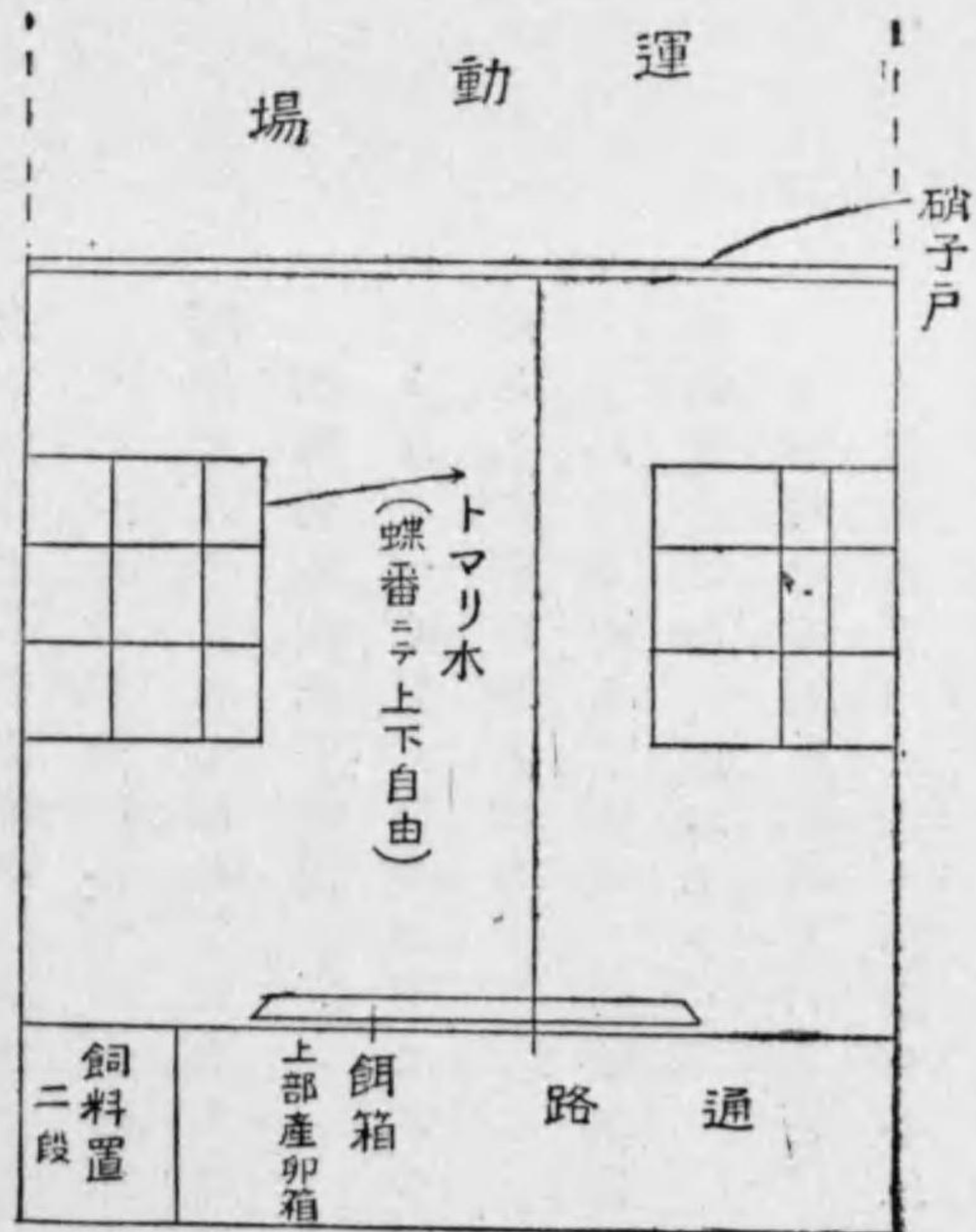
の健康を害するからである。

(3) 鶏舎の経営

「鶏では、とてもやつて行けない」と多くの人が言ふ。然しそれは、経営法をまちがへてゐるからだ。

この不景氣な時に何の考もなく、高い資料をかひ入れて放漫的な飼育をしてゐては、どうして、利益があらう。

どうしても、それには、飼料は主として自分の家の残りもの、或ひは農産物の残り物等にて飼料にあてがはねば駄目である。



之は高等一二年の経営が適當である。

當番は五、六名

特に當番に注意させねばならぬことは、えさを澤山にやらないこと、及びえさを不定時にやらぬことである。

當番には、やはり當番日記をかゝせる。

殊に、鶏卵等もあるから、主任は、毎日餘程注意してやらないと間違ひが多くなる。當番日記の内容は

昭和	年	月	日	曜日	天	長校	主任	當番
	登校時刻	時	分	退校時刻	時	分		



概 評	卵 の 数	區 分		備 考
		を や ど り めんどり、なんどり	ひ なの 数	
	今日産んだ卵数		合 計	
	月始めからの産卵数		備	
	今日賣つた卵数			
	残 卵			
	賣先人			

賣つた先を明にしておくこと。即ち別刷である生産額帳簿に賣先人に就ては記載せねばならない。

(4) 養鶏選定の必要所以

- (1) 性質が活潑であつて、兒童の活動性に適する。
- (2) 體質が強健であり、併も飼育容易であり、兒童の作業に適してゐる。
- (3) 外貌動作共に温雅優美、兒童の親愛を受くる性質を有してゐる。
- (4) 農家經濟に關係深い。

(4) 養鶏の目的

- (1) 兒童の農業趣味を助長せしめるため
- (2) 飼育管理に關する一般の知識技能を授與するため
- (3) 廢物利用の觀念を養成させるため
- (4) 經濟思想の養成に資するため
- (5) 郷土の養鶏改良に資するため
- (6) 動物を愛する念を養成するため

(5) 飼 料

飼料は、成分上、廢物利用上、經濟飼料等の三方面から研究選擇することが必要である。

(1) 購入を要せざるもの

(イ) 稻の調製の際生ずる碎米粒、落穂、鹽水選浮粃等

(ロ) 蔬菜の屑物及び間引菜

(ハ) 兒童の理科實驗の殘物

例へば、二枚貝、巻貝等の如きもの

(三) 學校職員、兒童の殘飯による

(2) 購入を要するもの

(イ) 豆粕、麥粕、米糠、麥穗等

(6) 鶏飼育上の注意

(1) 郷土に適する鶏を飼育すること

(2) 兒童をして、よく觀察せしめ、すべてに研究的になさしめること。

(3) 當番を定め、各自責任を以て事に當らしめること。

(4) 養鶏時報により、兒童のみでなく、郷土人にも養鶏知識を普及させる様努力すること。

(5) 飼料は、不經濟に陥らぬ様、經濟觀念の養成に努むること。

(6) 水、或は、綠餌は新鮮なものを施與せしむること。

(7) 鶏の營養についても、充分注意せしめること。

(8) 動物愛護の精神を以て接すること。

(7) 掲示板の利用法

(例) 養鶏時報(十一月上旬)

この頃は、一般動物の元氣が出て來るが、寒氣にそろ／＼向ふのであるから、次の事に注意して鶏を管理しませう。

(一) 寒さを防ぐ用意をすること。

學校の鶏舎の障子も先月までは、寒冷紗をはつておきましたが、本月からはそれをとりはずして、ガラスをはめました。夜間鶏舎内へ夜風が入らない様注意しませう。

(二) 飼料は夕方には、小麥の様な粒餌をあたへて、夜間鶏の腹がすかない様に、腹がすけば、諸君でも同じ様に大變身體が寒くなるでせう。この様なことが度

々あれば、鶏は卵をうまなくなり、

「鶏は卵を産むものにあらず、

産ましむるものなり。」

(三) 十分菜類をあたへませう。

毎朝清水を施しませう。

#### 4、水族館

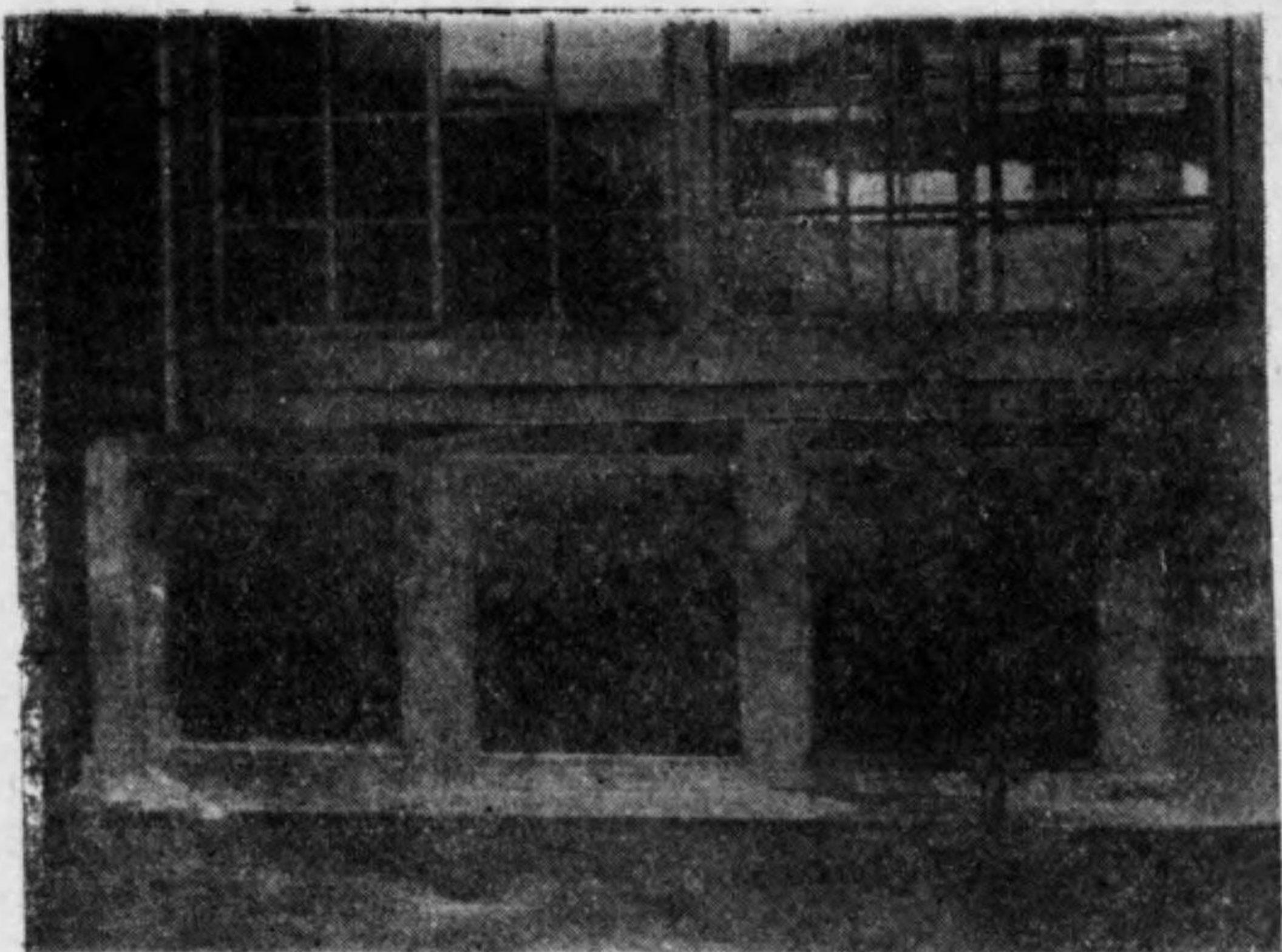
##### (1) 目的

魚類の游泳状況を直観させ、小動物を、この水族館中に飼育させ、それによつて卵から、全成に致るまでの發生の状態並にその生活状態を観察させる。

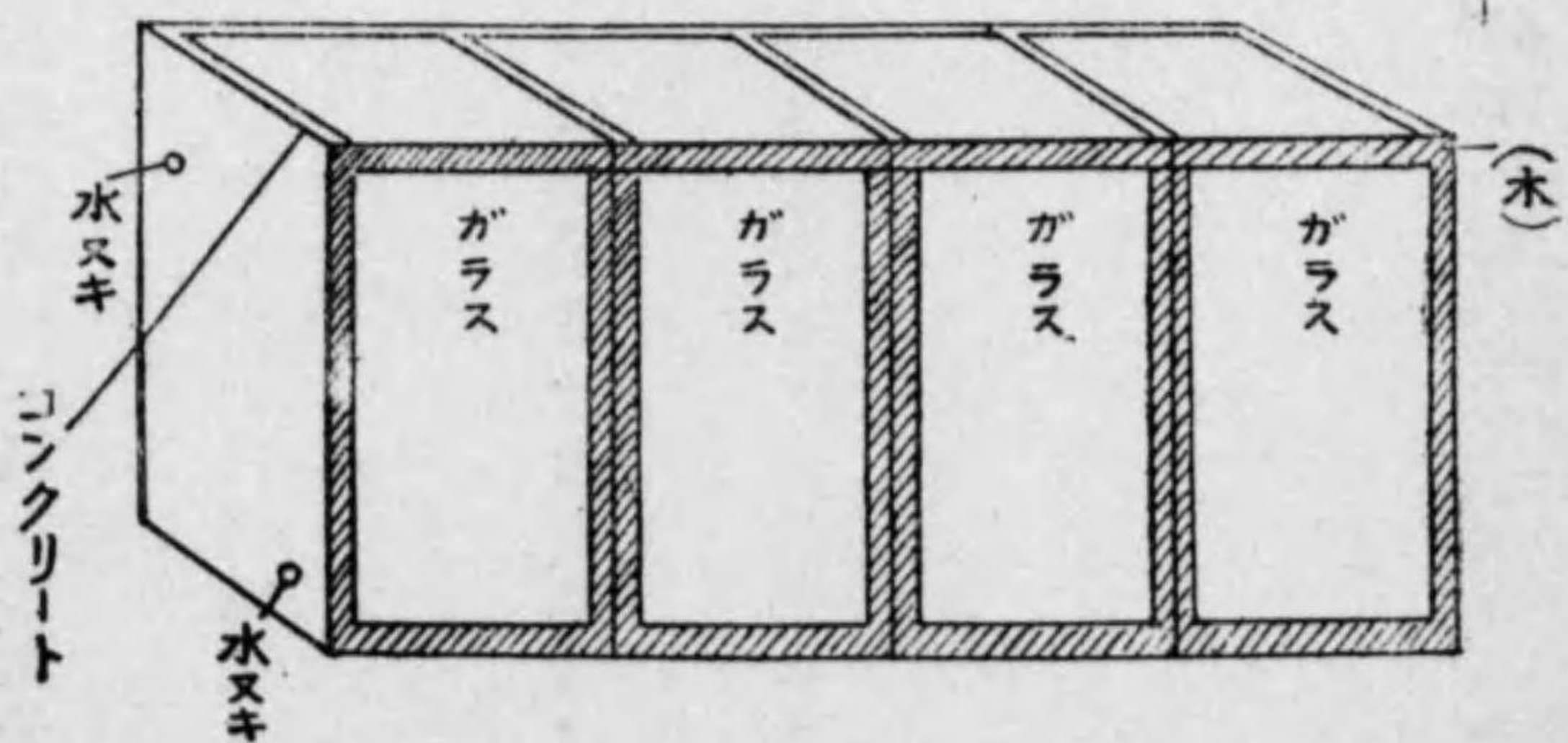
併しながら、こうした理科の直観のみにとどまらず、郷土の産業、殊に水産業に對する理解、ひいては之が改善策を講ずるところまで發展せしむべきである。

##### (2) 水族館の構造

三方はコンクリートで厚さ五六寸位が適當かと思はれる。



第五 作業学校と家畜飼養



前方は、ガラスである。ガラスの厚さも、中の水の容積によつて異なるが、四分厚が適當である。

三尺に四尺で三分厚のガラスの價は所により高低があるが、十二三圓位は要する。

(3) 水族館の経営

その學校の所在地が湖沼或は海に近ければ、兒童達に漁獲させたり、漁師に依頼するかして徐々に内容を豊富にして行くべきである。

水も毎日一寸づゝ變へて行かねば、到底魚類を生育させることが出来ぬので、その施設も必要である。

(4) 水族館経営上の注意

(1) 常に、水中に藻類を入れておくこと

(2) 水の調節に注意すること

(3) 食飼を毎日一定の時間に與へてやる

(4) 兒童達にガラスにふれさせてはならぬ

(5) セメントをこね、コンクリートにして、乾いて後に水を入れ、魚を放たず、一週間程は水のみを入れて、あくぬきをなすことが大切である。

(5) 水族館中に飼育すべき魚類

例へば淡水魚ならば

(1) 鯉科

鮒

鯉

はす

うぐひ

ひがい

もうこ

わたか

はえ

むつ

かまつか

いしもろこ

ひらぼて

(2) はぜ科

いしぶし

いさこ

はぜ

どんこ

第五 作業學校と家畜飼養

作業学校の施設と経営

どまん

あかはぜ

(3) なます科

ぎぎ

なます

(4) どじよう科

どじよう

しまどじよう

めくらどじよう

(5) さけ科

あめのうを

あゆ

いわな

(6) うなぎ科

うなぎ

(7) やつめうなぎ科

やつめうなぎ

(8) めだか科

めだか

(9) かちか科

かちか

5、養魚場

(1) 目的

学校内の溝を利用し、養魚を行ひたい。勿論小魚或は卵をはなして之を成育せしめる。

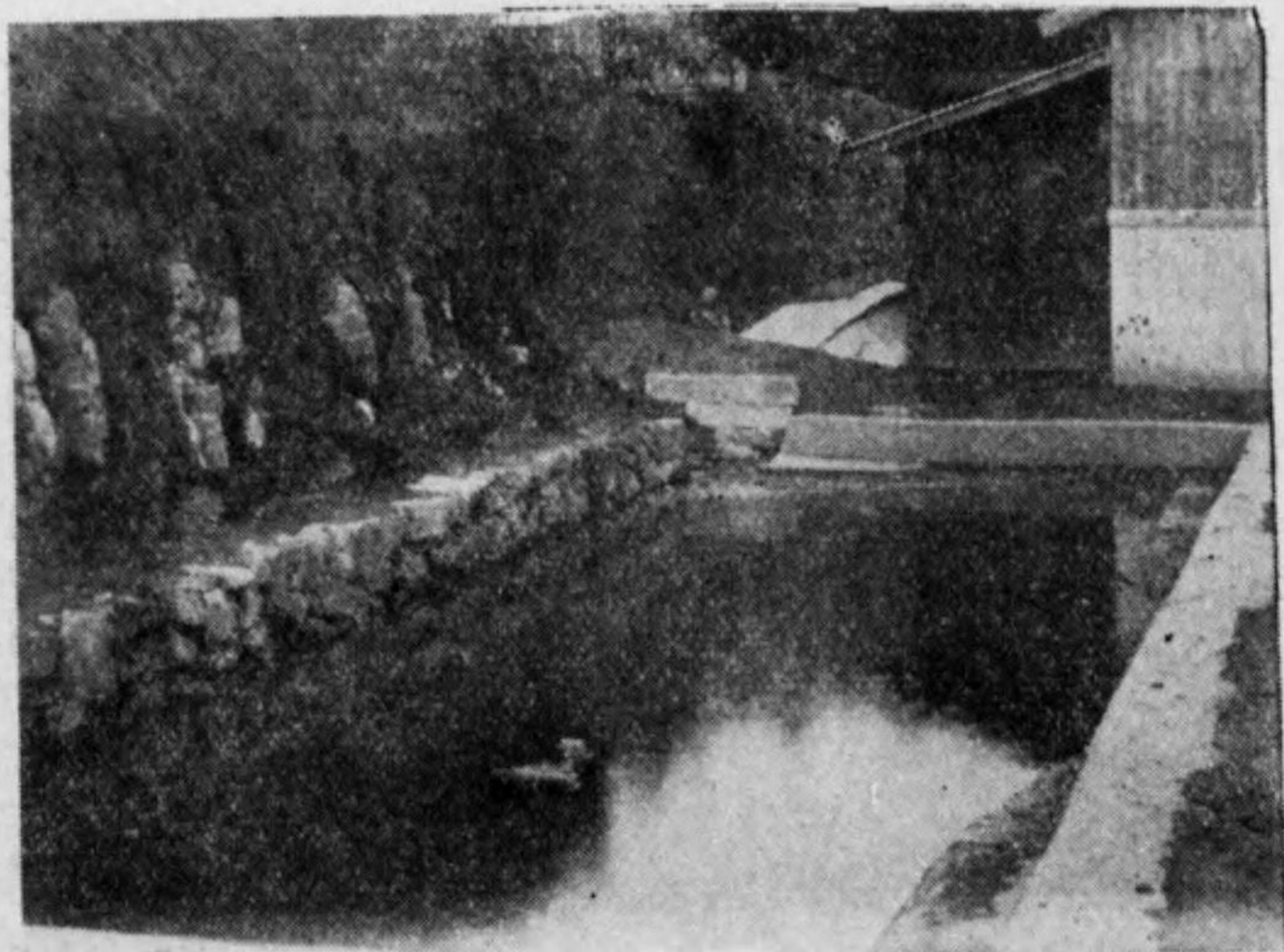
(2) 経営上の注意

(イ) 飼料を一定の時刻に與へること

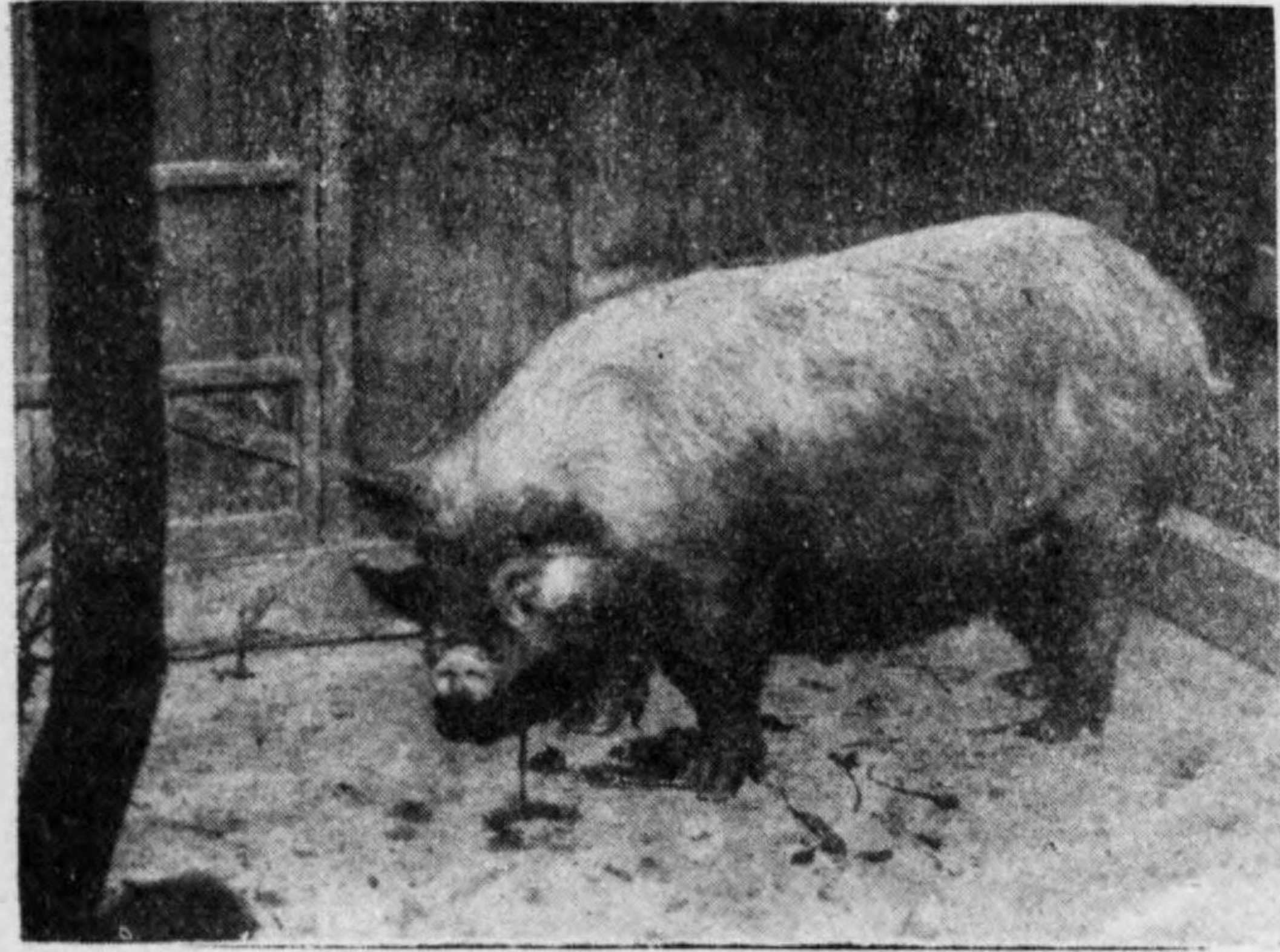
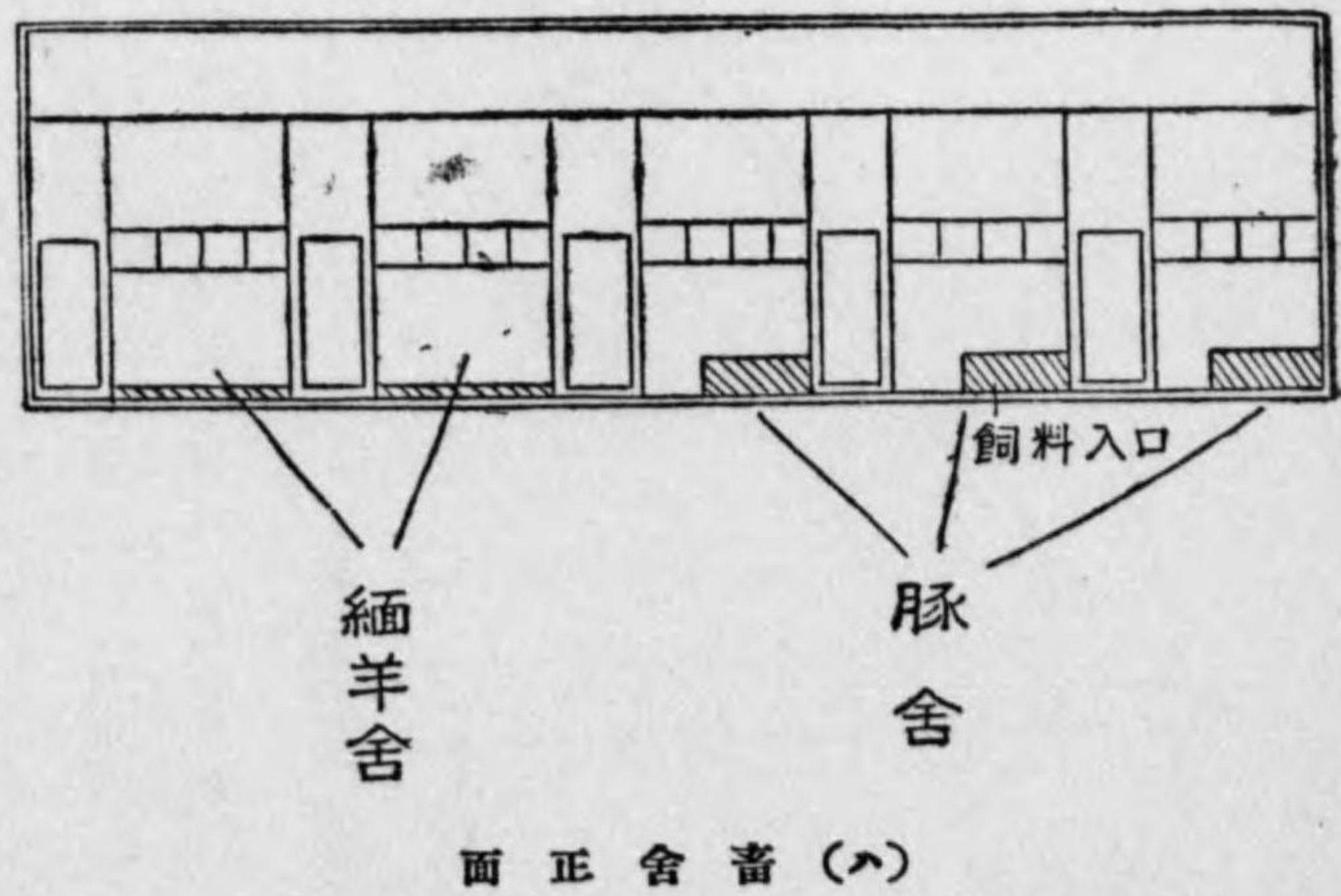
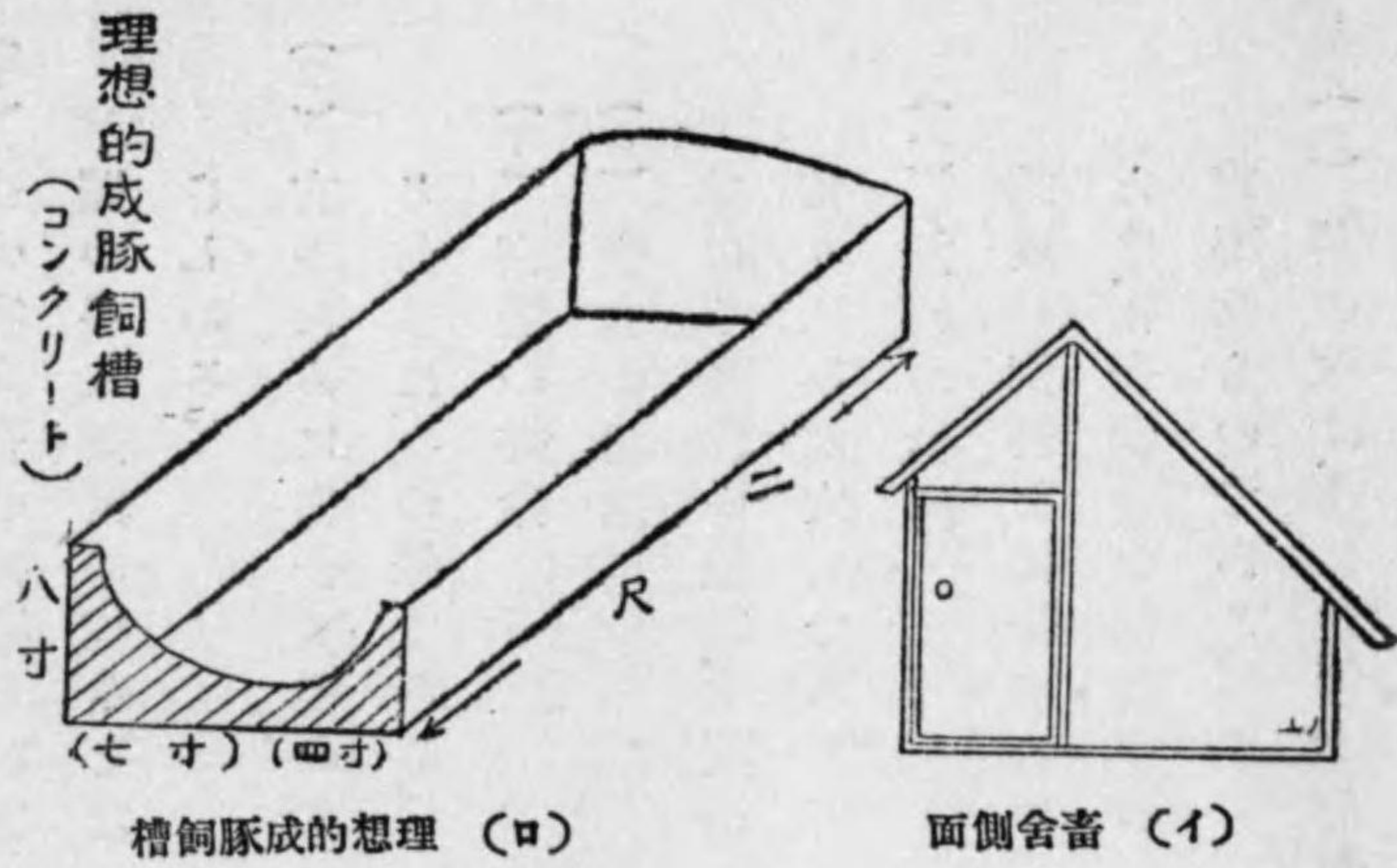
(ロ) 池中へ、岩、或は木の根等を入れてやることを忘れぬ様に

6、畜舎

第五 作業学校と家畜飼養



養魚場



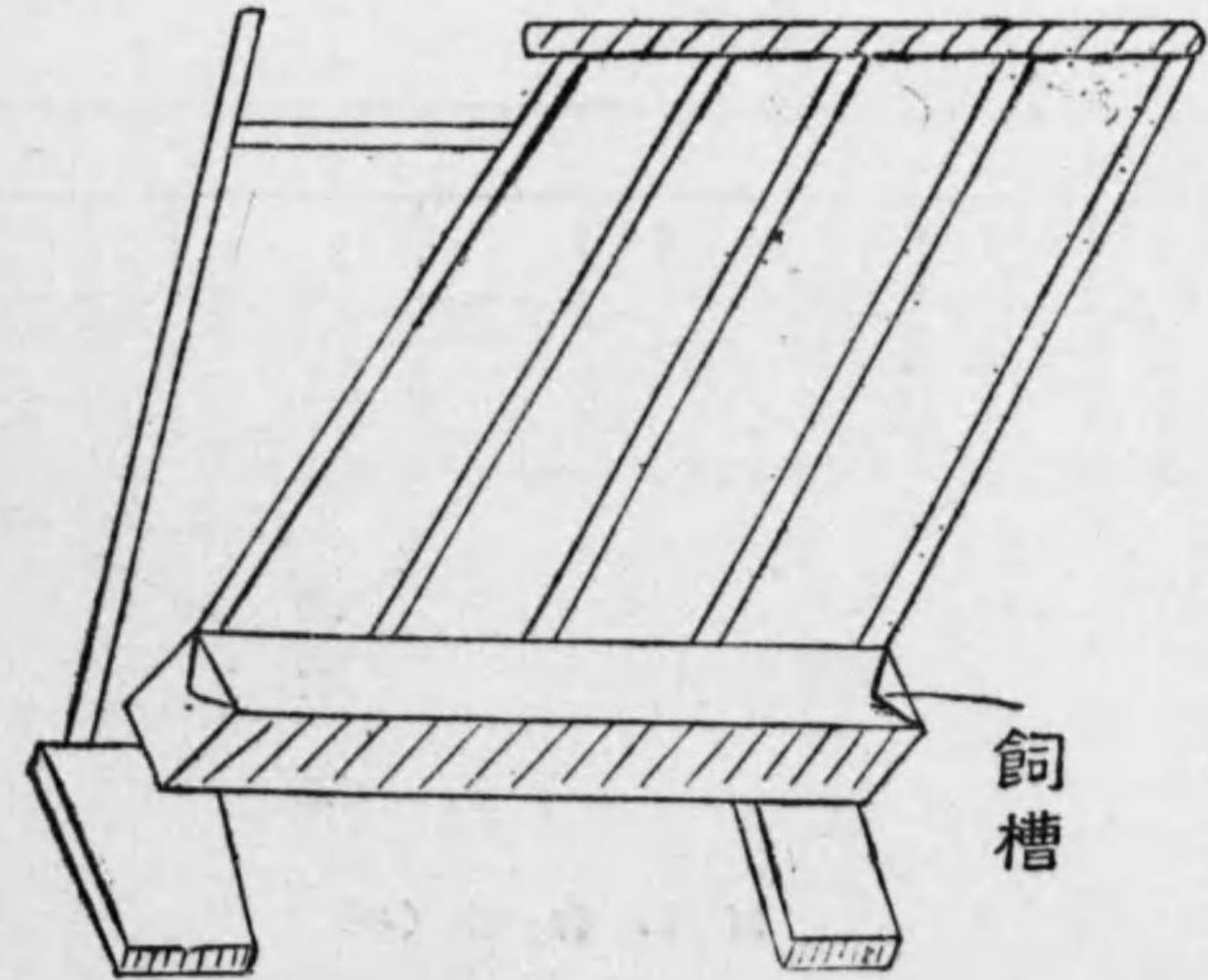
豚

二二〇  
 小學校に於ては、勞作的な立場より  
 又既肥を以て、金肥を補ふ點等より、或  
 は、廢殘物の利用の點より、大いに有畜  
 が必要である。

- (1) 飼育したき家畜
  - 一、豚
  - 二、山羊
  - 三、緬羊
- (2) 畜舎の施設
  - (イ) 畜舎側面
  - (ロ) 理想的成豚飼槽
  - (ハ) 畜舎専用バケツ
  - (三) 緬羊草架
- (3) 畜舎當番規定

作業学校の施設と經營

- (1) 畜舎、家禽舎の掃除及び畜體の手入飼料の補給をなさしめる。
- (2) 右のために畜舎當番のする作業は、次の様である。
- (イ) 畜體の掃除
- (ロ) 畜舎の掃除
- 殊に不潔物の整理、敷藁の切り込みは大切である。
- (ハ) 飼料の供給
- 適度の飼料を供給することとは、畜舎當番の重要中の重要なものである。
- (ニ) 其の他は、主任教師がその都度、都度に命ずる。



架草羊編 (ニ)

- (3) 家畜に對して、粗暴の取扱ひをせないこと
- (4) 當番日記を記入すること
- (5) 歸校前に、主任教師の檢閲を得ること

(4) 畜舎當番日記

畜舎當番日記は、毎日常畜に對する觀察或は、當番の作業事項を記入させることによつて、家畜の状態乃至は、將來への考察をする指針となるものである。

- (1) 畜舎當番日記記入上の注意
  - (イ) 正確に併も、觀察事項及び作業事項を緻密に記入すること
  - (ロ) 缺席者あるときは、その理由を明かにしておくこと
- (2) 畜舎當番日記の實際

昭和 年 月 日 天	
檢校 長	主任 當番
缺席者及 其理由	

評 概	種 類	登 校 時 刻		時 分	退 校 時 刻	時 分
		区 分	め 子			
	緬 羊	を	を	計	理 管・察 観	
		す	す			

### 7、緬 羊

(1) 緬羊飼育の目的

主として、雑草によつて飼育が出来、飼育の容易にして、然も性質が温順な家畜であるが故に本校では飼育してゐる。

尙我が國の貿易品中、多額の輸入を仰いでゐるのは、羊毛である點等から考へ農

家の副業として大いに奨励したい。

(2) 緬羊飼育上の注意

- (イ) なるべく緑草を多く施すこと
- (ロ) 毒草に注意し、之を絶対に與へないこと
- (ハ) 冬期は乾草を與へる爲夏期(七八月)に乾燥製造をなしておくこと
- (ニ) 食餌には絶対に土砂を附せざること
- (ホ) 別表、草架参照のこと
- (ホ) 醬油粕又は、食鹽或は水を施すこと



緬 羊



- (一) 蚊、蠅の驅除を怠らぬこと
- (3) 緬羊舎經營上の注意
  - (イ) 不潔に陥らない様に
  - (ロ) 冬期に於ては、敷藁を増加すること
  - (ハ) 採光通風に注意すること
- (4) 緬羊に關する法規の拔萃

○種緬羊貸付規則(大正七年四月二十日農商務省令第十二號)

- 第一條 種羊場長ハ緬羊ノ改良蕃殖ヲ圖ル爲本則ニ依リ其ノ保管ニ屬スル種牡  
緬羊ヲ左ニ掲クル者ニ無償貸付スルコトヲ得。
- 一、種牝緬羊五頭以上ヲ有スル者
  - 二、二人以上ノ者ニシテ種牝緬羊ノ總數五頭以上ヲ有所有シ共同テシ貸付  
ヲ受ケムトスル者
  - 三、畜産組合又ハ畜産組合聯合會

#### 四、農會

##### 五、道府縣又ハ郡

六、農商務大臣ニ於テ適當ト認メタル者

前項ノ貸付ヲ爲スヘキ種牡緬羊ノ種類ハ農商務大臣之ヲ告示ス

第二條 前條ノ貸付ヲ受ケムトスル者ハ地方長官ヲ經テ毎年三月末日迄ニ第一  
號様式ニ依ル貸付願ヲ種羊場長ニ差出スヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ期  
限經過後ニ於テモ貸付ヲ願出ツルコトヲ得

第三條 種牡緬羊貸付ノ許可ヲ受ケタル者ハ第二號様式ニ依ル借受證ヲ種羊場  
長ニ差出シ種牡緬羊ヲ受領スヘシ

第四條 種牡緬羊ノ貸付期間ハ三年以内トス貸付期間滿了後繼續シテ貸付ヲ受  
ケムトスル者ハ地方長官ヲ經テ期間滿了ノ日ヨリ二月前ニ繼續貸付願ヲ種  
羊場長ニ差出スヘシ

第五條 貸付種牡緬羊ヨリ生スル果實ハ借受人ノ所得トス

第六條 借受人ハ種羊場長ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外貸付種牡緬羊ヲ他人ニ貸

付スルコトヲ得

第七條 貸付種牡緬羊ノ受領又ハ返納ハ種羊場長ノ指定スル場合ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第八條 貸付種牡緬羊ノ借受返納及飼養管理ニ關スル一切ノ費用ハ借受人ノ負擔トス

第九條 貸付種牡緬羊ニ付失踪盜難疾病斃死其ノ他重大ナル事故アリタルトキ又ハ其ノ飼養ノ場所ヲ變更シタルトキハ借受人ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ種羊場長ニ届出ツヘシ但斃死ノ場合ニ於テハ獸醫ノ檢案書ヲ添付スヘシ  
借受人死亡シタルトキハ相續人ハ遲滞ナク其旨ヲ種羊場長ニ届出ツヘシ

第十條 借受人故意又ハ重大ナル過失ニ因リ貸付種牡緬羊ニ損害ヲ與ヘタルトキハ種羊場長ハ借受人ヲシテ其ノ損害ヲ賠償セシムヘシ

第十一條 借受人ハ貸付種牡緬羊ヲ配シタル種牡緬羊ノ五月末日迄ノ蕃殖成績ヲ第三號様式ニ依リ毎年六月末日迄ニ種羊場長ニ報告スヘシ貸付種牡緬羊ヲ返納シタル後ニ於ケル其ノ種牡緬羊ヲ配シタル蕃殖成績ニ付亦同シ

第十二條 農商務大臣ハ部下ノ官吏ヲシテ借受人ニ就キ貸付種牡緬羊及之ニ配スヘキ種牡緬羊並其ノ仔羊ノ飼養管理ノ狀況ヲ檢査セシムルコトヲ得

第十三條 農商務大臣又ハ種羊場長必要ト認ムルトキハ借受人ニ對シ貸付種牡緬羊及之ヲ配スヘキ種牡緬羊並其ノ仔羊ノ飼養管理關シ必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第十四條 繼續シテ三年以上貸付種牡緬羊ヲ飼養管理シ其成績善良ナルトキハ種羊場長ハ借受人ニ對シ無償ニテ其ノ種牡緬羊ヲ附與スルコトヲ得  
相續人カ引續キ借受ケタルトキハ其ノ借受ケタル期間ニ被相續人ノ借受ケタル期間ヲ通算シ前項ノ期間ヲ定ム

第十五條 借受人本則ノ規定又ハ第十三條ノ命令ニ違反シ若シクハ第十二條ノ檢査ヲ拒ミ又ハ貸付種牡緬羊ノ飼養管理ヲ怠リタルトキハ種羊場長ハ種牡緬羊ノ返納ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ借受人ハ之ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十六條 二人以上共同シテ借受ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サムトスルトキハ代表者ヲ

定メ之ヲ種羊場長ニ届出ツヘシ

附則

本則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

第二條中三月末日トアルハ大正七年ニ限リ六月末日トス

第一號様式

種牡緬羊貸付願

一、何種 何頭

一、何種 何頭

右貸付御許可相成度此段相願候也

住所

年 月 日

借受人

氏

名 印

種羊場長殿

記

一、借受期間

自何年何月至何年何月

二、借受種牡緬羊飼養ノ場所

何府縣何郡市何町村大字何字何

三、所有種牝緬羊ノ種類頭數

何種何頭

四、種付ヲ行ハムトスル種牝緬羊ノ種類別見込頭數

自己所有ニ屬スルモノ

何種何頭

他人ノ所有ニ屬スルモノ

何種何頭

第二號様式

收入  
印紙

種牡緬羊借受證

一、種類 記號 何年何月生 評價價格

一、何種 何號 年 月生 何 圓

、 、 、 、 、 、 、 、 、 、

第五 作業學校と家畜飼養



商務大臣ノ指定スル道府縣ノ同一市町村又ハ之ニ準スヘキモノノ區域ニ於テ各別ニ緬羊ヲ飼育セムトスル者五人以上ノ出願アリタル場合ニ其ノ拂下ヲ爲スモノトス畜産試験場長又ハ種羊場長必要ト認ムルトキハ前項ノ規定ニ依ラス種豚又ハ種緬羊ノ拂下ヲ爲スコトヲ得

第四條 種畜ノ拂下ヲ受ケムトスル者ハ種牛又ハ種豚ニ在リテハ隨時畜産試験場長又ハ畜産試験場支場長ニ種緬羊ニ在リテハ四月一日ヨリ六月末日迄ニ種羊場長ニ別記様式ニ依リ拂下願書ヲ提出スヘシ

第五條 前條ノ出願アリタル時ハ畜産試験場長畜産試験場支場長又ハ種羊場長ハ左記各號ノ事項ヲ定メ之ヲ出願人ニ通知スヘシ

- 一、 拂下クヘキ種類、性、生年月日及頭數
  - 二、 拂下代價及代金納付ノ期限
  - 三、 種畜引渡ノ期限及場所
  - 四、 拂下ヲ受クルヤ否ヲ申出ツヘキ期限
- 出願人前項第四號ノ期限ニ拂下ヲ受クヘキ旨ヲ申出テサルトキハ出願ハ其

ノ効力ヲ失フ

畜産試験場長、畜産試験場支場長又ハ種羊場長ニ於テ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ拂受人ニ通知シテ引渡ノ期限又ハ場所ヲ變更スルコトヲ得

第六條 拂受人種畜ノ引渡ヲ受ケムトスルトキハ畜産試験場長、畜産試験場支場長又ハ種羊場長ニ代金納付ノ證書ヲ呈示スヘシ拂受人前項ノ證書ヲ呈示セサル場合ト雖畜産試験場長、畜産試験場支場長又ハ種羊場長ニ於テ拂下代金ヲ納付シタルモノト認ムルトキハ拂下ケタル種畜ノ引渡ヲ爲スコトヲ得

第七條 拂受人引渡ノ期限經過後一週間内ニ拂下ケタル種畜ノ引渡ヲ請求セサルトキハ拂下ハ其ノ効力ヲ失フ前項ノ場合ニ於テハ既ニ納付シタル代金ハ之ヲ返還セサルモノトス但シ畜産試験場長、畜産試験場支場長又ハ種羊場長ニ於テ正當ノ事由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 拂下ケタル種畜ニシテ斃死、疾病其ノ他拂受人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ引渡ヲ爲スコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ拂受人ノ請求アルトキハ既ニ納付シタル代金ハ之ヲ返還スヘシ但シ拂受人ハ損害ノ賠償スル

コトヲ得

拂受人ハ拂下ヲ受ケタル種畜ノ瑕疵ヲ事由トシテ拂下ノ取消代金ノ減額又ハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第九條 畜産試験場長畜産試験場支場長又ハ種羊場長ハ拂受人ノ請求ニ依リ拂下ケタル種畜ヲ運送取扱人ニ引渡シタルトキハ其ノ引受ノ時ニ於テ引渡ヲ了シタルモノトス

第十條 畜産試験場長畜産試験場支場長又ハ種羊場長ハ拂受人ノ請求アリタルトキハ種畜引渡ノ際其ノ血統證ヲ交付スヘシ但シ畜籍謄本ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

拂受ケタル種畜ニシテ喪失若ハ斃死シタルトキ又ハ之ヲ撲殺若ハ屠殺シタルトキハ拂受人ハ三十日内ニ拂下ヲ受ケタル畜産試験場長畜産試験場支場長又ハ種羊場長其ノ旨ヲ届出テ且其ノ血統證又ハ畜籍謄本ヲ返納スヘシ

第十一條 種牛又ハ種豚拂受人ハ毎年一月末日迄ニ前年ニ於ケル其ノ飼育及蕃殖ノ成績ヲ種緬羊拂受人ハ毎年九月末日迄ニ前年九月一日ヨリ其ノ年八月

末日迄ニ於ケル其ノ飼育及蕃殖ノ成績ヲ拂下ヲ受ケタル畜産試験場長畜産試験場支場長又ハ種羊場長ニ届出ツヘシ

第十二條 數人共同シテ種畜ノ拂受ヲ爲サントスルトキハ代表者ヲ定メ之ヲ畜産試験場長畜産試験場支場長又ハ種羊場長ニ届出ツヘシ

附 則

第一條 本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
種畜牧場種畜拂下規程ハ之ヲ廢止ス

第二條 第四條中六月末日迄トアルハ大正七年ニ限り十月末日迄トス

第三條 種畜牧場種畜拂下規程ニ依リ拂下ヲ受ケ又ハ拂下ノ許可ヲ受ケタル者ハ本則ニ依リ拂下ヲ受ケタル者ト看做ス

種畜牧場種畜拂下ヲ出願シタル者ハ本則ノ規定ニ抵觸セサル限り出願シタル者ト看做ス

(別記様式)

種牛(豚)種羊(緬羊)拂下願

一、何種 牡(牝)牛(豚)(緬羊) 頭

一、同 同 頭

御拂下相成度種畜拂下規則ニ依リ此段相願候也

年 月 日

住所

職業

氏

名印

畜産試験場長(畜産試験場支場長)何種羊場長宛

### 8、豚

#### (1) 飼育の目的

農家の副業として、農産物の残滓の利用上、或は採肥上の両方面から見ても、豚の飼育は必要であつて、生徒にその飼育をなさしめ、有畜加味の農業経営をなさしむ

ることは目下の急務である。

#### (2) 豚飼育上の注意

- (イ) 動物愛護の精神で飼育すること。
- (ロ) 決して豚は不潔を好むものでなく、清潔を好む家畜である。
- (ハ) 飼料はなる可く安價で滋養分の多い飼料を與へること。
- (ニ) 混食動物であるから一種にへんしてはならない。
- (ホ) 刺戟性のものは禁物である。

#### (3) 豚舎について

- (イ) 豚は性質が荒いので餘程頑丈に然も管理上餘り住宅より遠くないこと
- (ロ) 衛生上清潔にすること。
- (ハ) 夏期は清涼にして、殊に冬は暖かいところ。
- (ニ) 掃除に便利なところを望む。
- (ホ) 厩肥運搬に便利な土地。
- (ヘ) 採光、通風に注意。

第五 作業學校と家畜飼養

年 齡	平均體重 斤	全 體 斤	澱粉價 斤	純蛋白質 斤
(1) 種豚用	20,000	4,400	3,380	0,620
二-三ヶ月	45,000	3,600	2,730	0,400
三-五	55,000	5,200	2,320	0,300
五-六	80,000	2,800	0,520	0,230
六-九	120,000	2,500	0,580	0,170
九-十二				
(2) 肥育用	20,000	4,400	3,380	0,620
二-三ヶ月	50,000	3,600	3,400	0,450
三-五	65,000	5,200	2,650	0,350
五-六	90,000	2,800	3,450	0,300
六-九	130,000	2,500	1,980	0,240
九-十二				

可 化 消

粗蛋白質 斤	粗脂肪 斤	無窒浸出 物及絛維 斤
0,660	0,100	2,800
0,500	0,080	2,200
0,380	0,050	2,100
0,030	0,030	1,900
0,220	5,020	1,500
0,660	0,100	2,800
5,200	0,090	2,550
0,440	0,070	2,250
0,390	0,050	2,050
0,520	0,030	1,850

作業學校の施設と經營

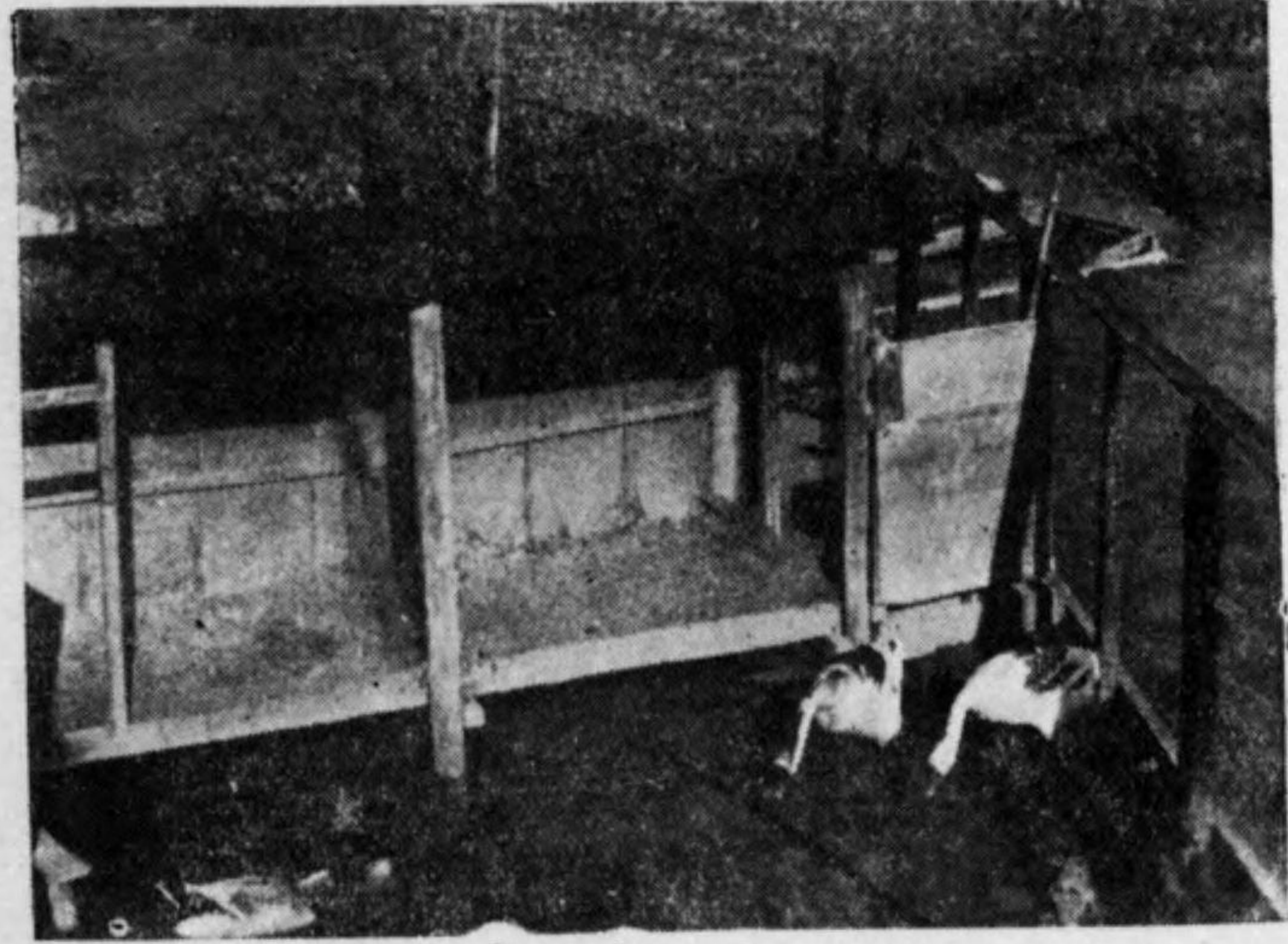
(ト) 豚舎はコンクリートとし、採糞掃除に便利なること。

(チ) 運動場を設けること。

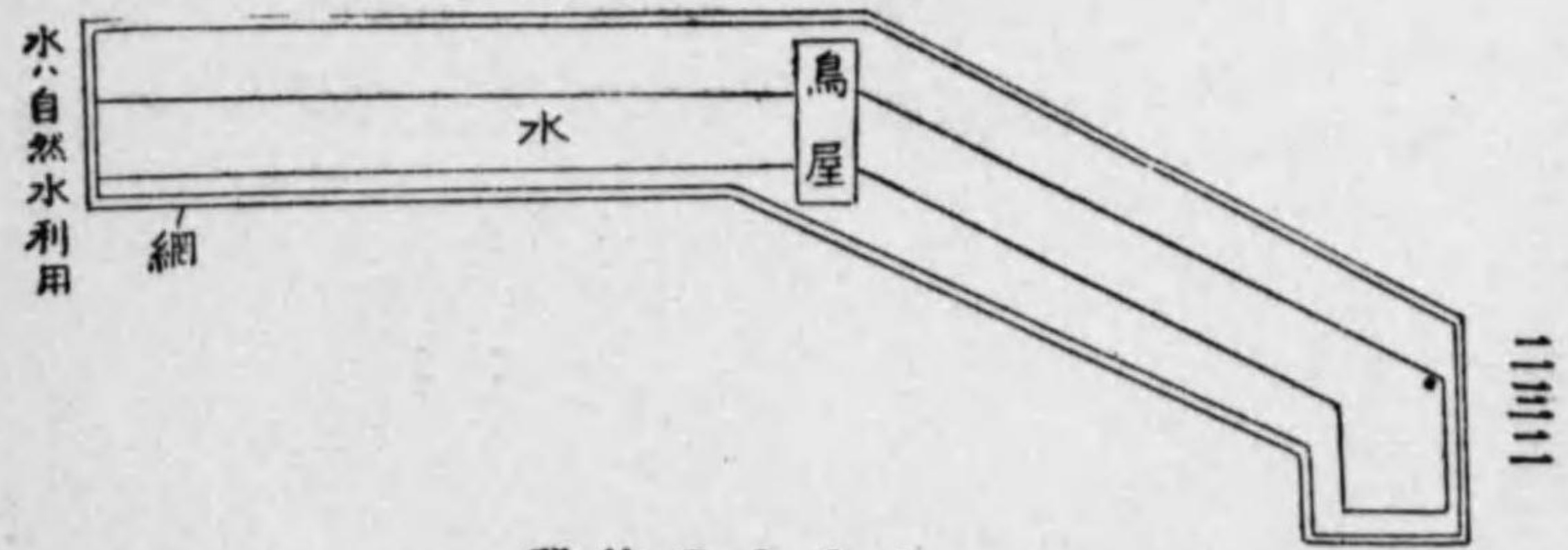
(4) 豚の飼料

ケンネル博士の一日要量標準





水禽舎



水禽舎の施設

### 9、水禽舎

#### (1) 水禽飼育の目的

家畜は、羊の外、鶯、鶯、鴨等を、小學校に於ては飼育したいものである。殊に、周圍が湖であつたり、池、沼、川に近い所ではぜひやつて欲しいものである。

#### (2) 飼育上の注意

- (イ) 動物愛護の精神で飼育すること。
- (ロ) 游泳する場所(例へば川、沼等)があれば便利である。
- (ハ) 害獣に注意すること。
- (ニ) 禽舎の清潔につとめること。
- (ホ) 緑草を與へること。

## 第六 作業学校の延長たる實業補習 学校の經營

### 一 作業主義實業補習学校の提唱

(イ) 農村は、國家の土臺であり、農業は國家の大本であると言ふにかゝはらず近時農村の疲弊、農民の困憊はその極度に達し、しかも益々其の勢を長ぜんとしつつある。

農村振興策は實に國家的の大問題であり、農村夫れ自體農民それ自身にとつては死活を決する最も眞剣なる緊急問題である。是が對策に關しては種々論議されてゐるけれども其の歸する所根本とするところは、農民自身の自覺と眞剣味ある努力とに俟たねばならない。

要は農村に於ける人の問題である。而もそれは教育の力に俟つほかはない。北歐丁抹に於ける國民高等學校が世界に憧憬せらるゝ「農民の國」を實現せる事實は雄辯に之を示すものであつて、我々の深く鑑るべき事である。

之に我が補習學校の進むべき道と絶大なる關係があることを考へるものである。

この見地からして、左の諸項は我が補習學校に於て猛省する最大なるものであると信ずる。

- (1) 如何にして我が村の自治を振興せしむべきか。
  - (2) 如何に我が村を經營すべきか。
  - (3) 如何にして我が村の農業經營を合理的ならしむべきか。
  - (4) 如何にして我が村の文化を向上充實せしむべきか。
  - (5) 如何にして農村思想の向上をはかるべきか。
- (ロ) 青年處女の時代は、人生の春である。精神的にも自治的にも伸展發達旺盛であると共に、人生の岐路に立つ最も危険なる時代とも言ひ得る故に、この青

年處女に對して切實なる同情を寄せて指導誘掖に盡し以て彼等の貴き人生を誤らざらしむる様に努めねばならぬ。こゝにも、補習學校の重大なる責任がある。この點について特に左の點に注意せんとするものである。

- (1) 特に自然に親しみ、作業を愛するの精神を涵養する。
- (2) 穩健なる人生觀を與ふる様につとめる。
- (3) 純美なる情操の陶冶に努める。
- (4) 高尚善美なる品性を作ることに努めしめる。

## 二 實業補習學校の基礎調査

### (島村の現況)

一般的の郷土調査は之を別に譲り、茲には實業補習學校の基礎となるべき事項のみにする。

### (イ) 島村の位置

#### 1、地理的地位



(以下岡篤郎氏の説により、之を類別して見る。)

2、産業的地位

A、土地に關する調査

町村名	種別						農家戸數		農家一戸平均		摘要	
	田	畑	山林	原野	宅地	其他	全戸數	農家戸數	歩合	田		畑
安土村	三〇六八	八〇九	三四五	四五〇	三六九	一三四八	八三九九	八〇五	五四七	〇、六八〇	九、三一、三八	一〇、六八
金田村	六三四三	二七四	三五	一四	三六七	一〇八	七三三	七九九	六〇八	〇、七六二	三、二〇、四五	一三、三三
岡山村	六〇五五	四九	九二	一七三	四六六	一八二	八〇八〇	九三五	六三六	〇、六八〇	九、五〇、七三	一〇、三三
八幡町	三六	九	三七	三	五九	三	七六一	六〇三	五三	〇、〇三二	六、九一、九〇	八、八〇
宇津呂村	三二六	二五三	四三三	二七	三〇二	六三	四三三	八四三	二七三	〇、三四三	三、四一、五五	一三、九三
島村	三八九反	二二三反	二四三反	五〇八反	一七三反	四二八反	六〇五〇反	五四二	三四九	〇、六三九	六、七〇、六八反	七、三六反

備考 他町村ニテ、所有段別及他町村ニテノ耕作段別ヲ調査スル必要アリ

B、主要農産物に關する調査

(各町村共ニ不明)

種類	町村		島		宇津呂村		八幡町		岡山村		金田村		安土村	
	項目	町村	島	宇津呂村	八幡町	岡山村	金田村	安土村						
米	栽培段別	一二三〇八反	五五三三石	三一五六反	八二八二石	二四反	六〇三四反	六三三四反	五〇六八反					
	數量	一一五八	二六二	一四二	八二八二石	五八石	一九二六六石	一七〇七〇石	一一六五二石					
麥	栽培段別	一五八	二六二	一四二	八二八二石	五八石	一九二六六石	一七〇七〇石	一一六五二石					
	數量	一五八	二六二	一四二	八二八二石	五八石	一九二六六石	一七〇七〇石	一一六五二石					
小麥	栽培段別	八	一三	二	八二八二石	五八石	一九二六六石	一七〇七〇石	一一六五二石					
	數量	八	一三	二	八二八二石	五八石	一九二六六石	一七〇七〇石	一一六五二石					
茶種	栽培段別	七〇	六六	一〇三三	九三三	三九六	四五〇	四〇二	四〇二					
	數量	七〇	六六	一〇三三	九三三	三九六	四五〇	四〇二	四〇二					
果實	栽培段別	五六	四二	一〇一	四〇二	四〇二	四〇二	四〇二	四〇二					
	金額	五二七四	三五六四	一三九四	一二七一四	七二七四	一三五七四	一三五七四	一三五七四					

第六 作業學校の延長たる實業補習學校の經營

野菜不明	
其他不明	

### 3、経済的地位

A、財政に関する調査(昭和三年度)

町村種別	國稅	縣稅	町村稅	農會費	組合費	其他	計
島村	六五〇	一一三〇	三〇〇	一二五九	〇	〇	四九〇三
宇津呂村	一〇八六	一六九一	二〇三〇	一五一六	〇	〇	五一三七
八幡町	二七六六	六三四五	六四〇四	四四八	五八	〇	二五五七
岡山村	一七九八	二五八三	三〇六三	三〇一五	八四	〇	七九三七
金田村	二八七三	二九八五	二三八八	三九八	二五	〇	九六三七
安土村	一四三七	二三八〇	三七三九	三七〇	八〇	〇	七四九七

備考 村債及村基本財産調査ノ必要アリ

B、一戸當諸公課調査(昭和三年度)

區分	租稅全體	村費	組合費	農會費	其他	計	島村ニ對スル歩合
島村	八八、三	五、九	〇	二、三	〇	九〇、六	一、〇〇
宇津呂村	五、一九	二六、一六	〇	一、八〇	〇	六〇、九	〇、六七
八幡町	一五、三	三八、八四	〇	二、八〇	〇	一六二、〇	一、七九
岡山村	八二、一六	三五、三六	〇	三、二	〇	八五、三九	〇、九四
金田村	一五、六	四二、三五	〇	四、九九	〇	一〇〇、六一	一、三三
安土村	八八、〇六	四〇、六七	〇	四、六〇	〇	九二、六六	一、〇〇

### 4、其他隣接町村との對比調査

作業学校の施設と經營

A、町村大勢調査(昭和五年度)

町村名	種別	面積	戸					人口		町村費
			農	工	商	其他	計	男	女	
島村	一、七四六 <sup>方里</sup>	三、四二	四〇	五三	一〇一	五四三	一、三四七	一、三五四	二、七〇一	四、〇二一
宇津呂村	〇、四〇〇	二、七四	一、六四	一、〇五	漁三〇庶三三 其他二三四	八四二	二、二三五	二、二二五	四、四五〇	五、三五〇
八幡町	〇、〇七三	五二	一、九七	七、〇九	六四五	一、六〇三	三、三六四	三、九一九	七、二八三	一〇、五四〇
岡山村	二、五〇〇	六、四九	四五	一、〇三	一、三九	九三五	二、二九五	二、三三八	四、四三三	一〇、九七〇
金田村	〇、五三五	五、八九	二九	八三	九八	七九九	一、九三九	二、〇七二	四、〇一〇	五、三五六
安土村	〇、六九四	五、〇七	三六	一、〇五	二二七	八〇五	一、九一九	二、〇二二	三、九九〇	三、七三九

備考 島村及岡山村

B、教育調査(昭和五年度)

(イ) 小學校

町村名	校數	尋常科 高等科 計	児童數		教員數	町村費	小學校費	小學校費ノ町村費ニ對スル歩合	児童一人當費用	摘要
			尋常科	高等科						
島村	一	二	沖島 男 八〇 女 一六	二四	八〇	四〇二一	一、四七三	〇、三六五	三五、〇九	
宇津呂村	一	一	男 二七 女 二五	三	二八	五、三五〇	一、七四三	〇、三三六	二八、九二	
八幡町	一	一	男 四七 女 四九	四	五	一〇、五四二	二、九七九	〇、二八二	二三、四六	
岡山村	一	一	男 三三 女 三二	五	三	一〇、九七二	七、五〇八	〇、六八八	一〇、六〇四	
金田村	一	一	男 二四 女 三三	五	一	四、三七〇	一、九五四	〇、四五六	二九、六五	
安土村	一	一	男 二七 女 三〇	五	一	三、七三九	一、五六七	〇、四二二	二三、四三	

(ロ) 實業補習學校

區	分	生徒數	専任教員數	兼任教員數	補習學校費	町村費ニ對スル實補費歩合	生徒一人當費用

區分	生徒數	專任教員	兼任教員	青訓費	町村費ニ對スル青訓費歩合	生徒一人當費用
島村	女男 四六六	二	六	三四五八	〇、〇八五	三一、一五
宇津呂村	女男 八四	一	五	一二三九	〇、〇二四	一四、七九
八幡町	女男 八七	三	七	四六七三	〇、〇四四	五三、七一
岡山村	女男 一七五	三	一〇	三二九〇	〇、〇三〇	一二、八五
金田村	女男 八一三	四	六	四六六六	〇、一六六	二三、九三
安土村	女男 八一三	五	六	五二一五	〇、一四〇	二七、〇二

(ハ) 青年訓練所

區分	生徒數	專任教員	兼任教員	青訓費	町村費ニ對スル青訓費歩合	生徒一人當費用
島村 (實補ニ充當)	六八	三	一	四七一	〇、〇〇九	六、九三
宇津呂村	七四			六〇四	〇、〇一六	八、一六
金田村	八三	七	二	八一四	〇、〇一九	九、九三
岡山村	九五	五	二	六〇二	〇、〇〇五	六、三四
八幡町	八七	四	二	一二六九	〇、〇一二	一四、五九

C、生産額調査(昭和三年度)

區分	農産	工産	畜産	水産	林産	鑛産	計	平均	摘要
島村	一八二五〇		四五九	三三六	九一六	一七九〇	三五〇〇〇	六四七、八七	
宇津呂村	二五七九六		一六三九三	三三四	四六二六		八一九〇九	九七三、一四	
八幡町	三三八七	一九九四二〇	一三二八六	一一八九	一一〇七八〇		二二四〇五三	一三三、四二	
岡山村	六三九二八	三五七六六	二六四四〇	一七三三四	五四八三	四、〇〇	一〇〇八八九七	一一六、〇九	
金田村	五八二七七	三三八五	二五四九四	一五八八			六三四〇八五	七七八、五八	
安土村	四二四八三	一〇五二二	二三四三三	二七七七四	二七七七四		六一五五七〇	七五三、二六	

作業学校の施設と経営

二四六

備考 一戸當收入ハ此上ニ他町村民ヘノ支拂額及ビ他町村ヨリノ收入額ヲ調査スル必要アリ

○郷土の特別収入事項

一、金錢方面(昭和四年度)

松茸落札金額	三二七七、五一 <small>圓</small>	込落札金額	四四八七、二二 <small>圓</small>	計	七、六六四、七三 <small>圓</small>	一戸平均	一四、二〇 <small>圓</small>
--------	--------------------------	-------	--------------------------	---	---------------------------	------	------------------------

二、自給自足方面

- (1) 薪持山より又官林より特別拂下を受く
- (2) 魚類主として自ら湖より得る
- (3) 堆肥湖底の泥藻を採集して一冬堆積し金肥に代ふ

D、農家戸數調査(昭和五年度)

地	耕				有				町	種	別	五段未満	五段以上	一町以上	三町以上	五町以上	十町以上	五十町以上	計
	金田村	岡山村	八幡町	宇津呂村	島村	安土村	金田村	岡山村											
八〇	一一〇	一五	四三	一〇八	一八四	二四九	二七四	八	一三〇	一一一	一六八	三四五	一三						五九〇
一六八	二三一	三三	一〇七	三四	一一八	一〇五	一三〇	四	六六	三九	二七七	八							八三六
三四五	二七七	四	一二〇	九八	九二	一五〇	一三五	三	六四	三九	八								五〇
一三	八		三	一	一四	一八	一六		一〇	七									二七三
					四	六	一〇		一一	一									三四一
																			四一三
																			五二九
																			五六五
																			一五
																			二七三
																			二五〇



作業学校の施設と經營

安土村	一〇九	二二三	二一五						五四五
-----	-----	-----	-----	--	--	--	--	--	-----

二四八

E、蠶業調査(昭和三年度)

區分	飼養戸數	掃立枚數	數	量	桑	畑	價	格	飼養農家一戸平均
島村	一五	一二六	五八〇	二	三三	三二八〇	二一九	三四四	
宇津呂村	三	二五	一五八	三	四	一〇二三	四八	九五	
八幡町	一	一	七	四		一四一九	三〇三五	一一八	
岡山村	一五	四〇	二四五	四		一四一九	四八	九五	
金田村	二二	八二	四九一	三		三〇三五	一一八	一一八	
安土村	四九	四九〇	三三五三	一	二六	一四六七九	三〇〇	三〇〇	

F、牧畜調査(昭和三年度)

區分	牛	馬	豚	養		戸數	羽數	當平均羽數	全戸ニ對スル平均
				戸數	羽數				
島村	一四			二四七	二三二二	一一	九〇	九四	四、三
宇津呂村	二二	二		二二一	五七一七	四	二八	二七、六	六、八
八幡町	二			一六〇	二二七七	四	四三	一四、二	一、四
岡山村	六二			四四四	六三四七	一三	七二	一四、三	六、八
金田村	二七	一七		三八〇	六〇四七	四	二五	一五、九	七、六
安土村	三五	四		三七〇	四九二〇	二	一〇	一三、三	六、一

G、水産調査(昭和三年度)

區分	水産業業者	魚獲高	水産製造高	水産養殖	水産業業者一戸平均額
島村	一六八	五九一〇六	三六六〇	二〇	三五、八二
宇津呂村	三	二二四三			七四七、六六

第六 作業学校の延長たる賀業補習學校の經營

二四九

区	分	自作	小作兼自作	計	全戸数	米産額	農家一戸當平均額	全戸一戸當平均額
八幡町		二			四九五	一九九		二四七、七五
岡山村		七四			八二九五		二〇〇〇	一一二、〇九
金田村		一六八			一三四八		五三〇	八、〇二
安土村		二一五			三九四〇五	三九三二	四六	一八〇、〇九

H、工業調査(昭和三年度)

區	分	疊表	藁製品	木製品	和船	下駄表	瓦	生糸	靴	菓子	計
島村		六〇七〇	一〇〇〇	一五〇〇	五五〇〇						
宇津呂村						一一〇〇〇	三三四六〇	三七七八四	六九〇		
八幡町	綿帆布 五八六六七			醬油 一四六三七						一三四二〇〇	
岡山村	二九七〇	一六七九				一三五〇〇		(煉瓦) 八八四〇〇			
金田村	二九一三				(トウラ) 一三二〇	(鐵工品) 一四七五				九八〇	

I、農家戸數内譯と米産對照調査(昭和三年度)

安土村	加丁用材 二七二八	一六七二	醬油 二五二五	(生酒) 一九〇〇							
-----	--------------	------	------------	--------------	--	--	--	--	--	--	--

區	分	自作	小作兼自作	計	全戸数	米産額	農家一戸當平均額	全戸一戸當平均額
島村		一四二	一一二	三四九	五四一	五五三三	一五、八五	一〇、二三
宇津呂村		六〇	七二	二七三	八四二	八二八二	三〇、二六	九、三九
八幡町		四	三五	五二	一六〇三	五八	一一、一五	〇、〇四
岡山村		一四二	二五三	六三六	九三五	一九二六六	三〇、七八	一九、五四
金田村		一四三	三六二	六〇八	七九九	一七〇七〇	二八、〇八	二一、三六
安土村		一二七	一三一	五四七	八〇五	一一六五二	二一、三〇	一四、四七

5、地勢廣表

廣	表	東	西	南	北	周	園
一、七四六			五八九〇 <sup>米</sup>		七九〇九 <sup>米</sup>		東—栗目村、伊庭村、西—琵琶湖、北—琵琶湖、南—岡山村、八幡町、宇津村、

6、戸口の靜動調査

(1) 人口

大字	年別	昭和三年				昭和二年				大正十五年				大正十四年				大正十三年				大正十二年				大正十一年								
		北	奥	白	圓	北	奥	白	圓	北	奥	白	圓	北	奥	白	圓	北	奥	白	圓	北	奥	白	圓	北	奥	白	圓					
北津田		一六四	一五一	一六五	一八八	二九八	三五〇	三〇一	三〇三	三〇六	三〇九	二九八	一六四	一五一	一六五	一八八	二九八	三五〇	三〇一	三〇三	三〇六	三〇九	二九八	一六四	一五一	一六五	一八八	二九八	三五〇	三〇一	三〇三	三〇六	三〇九	二九八
奥島		一八八	一八八	一六六	一八八	三五〇	三五〇	三五〇	三三二	三四八	三四六	三五九	一八八	一八八	一六六	一八八	三五〇	三五〇	三五〇	三三二	三四八	三四六	三五九	一八八	一八八	一六六	一八八	三五〇	三五〇	三五〇	三三二	三四八	三四六	三五九
白王		一六六	一六五	一六五	一六六	三三一	三四〇	三四〇	三四三	三三五	三四九	三四三	一六六	一六五	一六五	一六六	三三一	三四〇	三四〇	三四三	三三五	三四九	三四三	一六六	一六五	一六五	一六六	三三一	三四〇	三四〇	三四三	三三五	三四九	三四三
圓山		二〇七	二〇八	二〇七	二〇八	四四五	四三四	四三四	四二一	四三八	四二七	四三八	二〇七	二〇八	二〇七	二〇八	四四五	四三四	四三四	四二一	四三八	四二七	四三八	二〇七	二〇八	二〇七	二〇八	四四五	四三四	四三四	四二一	四三八	四二七	四三八

(2) 戸數

A、字別戸數

字別	昭和三年	同二年	大正十五年	同十四年	同十三年	同十二年	同十一年
中之庄	一四二	二八七	二八五	二九〇	二九二	二八三	二七一
長命寺	一一二 一五四	二九七	二七九	二九七	二七三	二九九	三一五
沖之島	三三七 三三七	七〇二	六三七	七〇二	六七〇	六四九	六四〇
計	二七〇一	二六九二	二六二六	二六八八	二六六二	二六六二	二六六四

字別	昭和三年	同二年	大正十五年	同十四年	同十三年	同十二年	同十一年
圓山	七六	七七	七七	七八	七八	七四	七六
白王	六八	六七	六九	六八	七〇	七〇	七九
奥島	八二	七九	八〇	七八	七八	七四	七七

第六 作業學校の延長たる實業補習學校の經營

製 疊 表 職	鍛 冶 屋	荒 物 商	家 及 舟 大 工	料 理 宿 屋	豆 腐 屋	仲 買 卸 商	疊 表 其 他	葭 商	小 賣 商	舟 乘	漁 業	養 蠶
	1	1			1			8	1		2	
			1					1	3		4	2
										1	4	
15		1						1	1		23	8
4			2	1					2		1	
57						2			2		1	4
4	1		1			1		1	1		1	
43	1	1	1		1	7		1	1		2	2
		1	2	1		2		1	1			
45								2			4	
12			1		1	1		4	2	2	2	
32								19	19			
			1			3		5	3	3	6	
			1	1				5	2	2	5	
20	2	1	8	2	2	7		2	4	6	7	
192	1	1	2	3	1	9		2	33	2	39	16

B、職業別戸數(昭和四年度)

小 作 兼 自 作	小 作 農	自 作 農	職 業 字 別	
			正業	副業
29	16	9	圓山	5
3	1	1	白玉	1
10	26	13	奥島	3
1	1	3	北津田	2
27	9	21	中之庄	2
	2	3	長命寺	2
5	27	9	沖ノ島	2
1		2	計	2
10	21	8		8
		2		2
1				1
7	10	69		7
82	99	60		82
12	14	82		12

作業學校の施設と經營

計	沖 之 島	長 命 寺	中 之 庄	北 津 田
542	139	65	53	59
542	140	68	54	57
546	142	68	54	56
558	144	78	55	57
541	132	68	57	58
531	131	66	58	59
526	120	68	58	58

第六 作業學校の延長たる實業補習學校の經營

産婆	裁縫	縫・エチコ職	製繩	牛馬曳	人力車夫	宣教師	使丁	代書人	新聞配達	神職	僧侶
				1	1						二
											二
	1		14						1		三
1		2	4				2	1		1	三
				2						1	一
											五
											二
											一八
1	1	2	18	3	1		2	1	1	2	

作業學校の施設と經營

郵便配達	會社銀行員	教員	官公吏	日稼	石工	簀編	理髮	染色	桶屋	精米	炭團製造
一	一	二				二				一	
1	1	1		60							
			一	4		一		一			一
			2	2		6					
		二		一							
		1	7	37		1					
		二	一	三			一			一	
	1		2	25							
	一			三							
				24					1		
				一					一		
一	一	三		四							
				4	1		1				
二	五	九	二	一六		三	一	一	二	二	一
1	2	2	11	102	1	7	1		2		

養畜	養鶏	無職	鐵管職	土木請負	竹製品
		一			
		三			
		一			
1					
					1
				1	1
		一			
		1			
		七			
			1	1	2

7、農業戸數調査

年度	區分	業別			作別		
		總數	專業農家	兼業農家	總數	自作農	小作農
昭和四年		三四九	二四二	一〇八	三四九	一四二	九四
昭和三年		三四一	二四三	九八	三四一	一三三	九一
同 二 年		三七〇	二三〇	一四〇	三七〇	一二〇	八八
大正十五年		三七〇	二三〇	一四〇	三七〇	一二〇	八八
大正十四年		三八九	二四九	一四四	三八九	一三五	九二
同 十三年		三八六	二四五	一四一	三八六	一三二	八九
同 十二年		三八六	二四五	一四一	三八六	一三二	八九
同 十一年		三八六	二五〇	一三六	三八六	一四七	八九

8、本村生産額調査

年度	區分	農産	工業	畜産	水産	林産	鑛産	計
昭和三年		一八二五〇	六七五〇〇	四九五九	六三七六	九一六五	一七九〇〇	三三〇〇五〇
十ヶ年平均		一九八三〇	七二〇〇	四四四〇	五九八八	一五七三六	二六三七五	三二〇四二
同 二 年		三七〇	二三〇	一四〇	三七〇	一二〇	八八	一六二
大正十五年		三七〇	二三〇	一四〇	三七〇	一二〇	八八	一六二
大正十四年		三八九	二四九	一四四	三八九	一三五	九二	一六二
同 十三年		三八六	二四五	一四一	三八六	一三二	八九	一六五
同 十二年		三八六	二四五	一四一	三八六	一三二	八九	一六五
同 十一年		三八六	二五〇	一三六	三八六	一四七	八九	一五〇

9、本村主要産物調査

年度	区分	産物						
		米	麥	茶種	蠶	鶏	副業品	果樹野菜
昭和三年		五五三	二七	五	五八〇	二二三	七七〇	100%
十ヶ年平均		五四七九	二七	五	三九三	二二六	六三〇〇	七四

10、村費

種別	区分	總額	一戸平均	割合		摘要
				村費ニ對スル	教育費ニ對スル	
村費		四〇二一一	七四、三三			
教育費		一九二六三	三五、六一	〇、四七九	〇、一七九	
小學校費		一四七〇三	二七、一七			
實補校費		三四五八	六、三九			

其他	一一〇三	二、〇三			
----	------	------	--	--	--

11、農業調査  
土地現勢調査

大字	小字	表土の深さ	土質	底土の性質
圓山	山前	〇、五〇 <sup>尺</sup>	腐蝕粘土	青味ある粘土
向山		一、九〇	ク	赤味ある砂土
岩崎		二、〇〇	粘土	青味ある粘土
西長葎		葎地ハ開墾地ナレバ表土ノ深サ		
東長葎		檢土杖ニテ測ラレズ		
川東		〇、四	粘土	赤味アル粘土
川西		測ラレズ	ク	青味底軟

作業學校の施設と經營

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
山田	宮ノ下	小ヶ谷	外浦	女ヶ崎	安堂	清水	高坂	諸子谷	北ヶ崎	堀切	白玉伊崎	
〇、四〇	〇、六九	〇、四五	〇、五〇	〇、八五	〇、六〇	〇、五〇	一、五〇	〇、六五	〇、六〇	〇、五〇	〇、五五	
粘土	腐蝕質	壤土	粘土	壤土	砂質壤土	腐蝕壤土	砂質土	壤土	褐色粘土	〃	壤土(山土)	
	黄土	〃	黄土	粘質壤土	〃	山土	砂質壤土	〃	赤土	〃	壤土(山土)	
	稍不味ある粘土											

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
川西	川東	向井	北浦	西川	東浦	大葭	堂葭	津田	長葭	権座	郡座	
〇、五〇	〇、六〇	〇、五〇	〇、五五	〇、七〇	〇、六五	〇、五〇	〇、五〇	〇、六〇	〇、六五	〇、五〇	〇、四〇	
腐蝕粘土	〃	粘土	壤土	粘質壤土		〃	粘土	〃	腐蝕粘土	壤土	〃	
	〃	粘土	砂質壤土	赤味ある粘土	宮ノ下に同じ	赤味ある粘土	粘土 一尺以下赤土	〃	〃	〃	腐蝕粘土	

第六 作業學校の延長たる實業補習學校の經營



〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	奥島
淵崎	不宅	榑作	藏方	西山田	田中	北津田	山口	柴原	若神子	道廻り	山津良	山津良
〇、九〇	〇、六〇	〇、八〇	一、〇〇	〇、四〇	〇、四〇	〇、五〇	〇、四〇	〇、八〇	〇、八〇	〇、五〇	〇、五〇	〇、五〇
腐蝕壤土	砂質土	砂質壤土	壤土	〃	微細土	〃	壤土	粘質壤土	〃	〃	〃	壤土
〃	〃	赤味ある粘土	赤粘土	〃	粘土	壤土	山土	亞酸化鐵	壤土	赤味ある壤土	壤土	壤土

〃	〃	中之庄	〃	〃	〃	〃	〃	北津田	〃	〃	〃
奥ノ湯	中の坪	六の坪	西	三坪	四坪	葭田	樋ヶ崎	向山	渡り合	十ヶ坪	平田
〇、三〇	〇、五〇	〇、三〇	〇、四〇	〇、六〇	〇、三〇	〇、六〇	〇、四〇	〇、四〇	〇、三五	〇、四五	〇、七〇
砂質壤土	粘土	〃	粘質土 (鐵分あり)	腐蝕質土	壤土	腐蝕質土	壤土	〃	粘土	赤粘土	粘土
山土	黄粘土	〃	〃	〃 (鐵分あり)	赤粘土	粘土	腐蝕質土	赤砂質土	赤粘土	〃	青味ある粘土

〃	鳥ヶ崎	〇、五〇	壤土	砂質壤土
〃	西ノ田	〇、五五	粘土	腐蝕質土
〃	畑		褐色粘土	褐色粘土
〃	橋折	〇、五〇	粘質壤土	黄山土
〃	トタナ	〇、五五	褐色粘土	稍褐色粘土
〃	鯰尾	〇、五〇	粘土	褐色粘土
〃	大割	〇、四〇	褐色粘土	〃
長命寺	岡崎	〇、三〇	粘質壤土	黄山土
〃	東出	〇、二五	壤土	〃
〃	西出	〇、六〇	〃	砂質土
〃	稻干場	一、一〇	褐色粘土	黄土
〃	松ヶ崎	一、八〇	粘質	黄粘土(石)

〃	岡崎道上	〇、六〇	壤土	砂質土
〃	上出山	一、三〇	黄粘土	黄粘土
〃	狸谷	〇、二五	壤土	〃

### 三 郷土研究による郷土の概括

#### 1、自然及び産業上

長所

- (1) 皇室との關係深きこと
- (a) 毎年むべの献上
- (b) 御大典に於ける蘭蓆、鯨、疊表の御用
- (c) 往古に於ける關係

第六 作業學校の延長たる實業補習學校の經營

作業學校の施設と經營

- (2) 湖に面せること
- (3) 従つて風景の明眉なること
- (4) 歴史的事實に富むこと
  - (a) 國 寶 一二點
  - (b) 保護建造物 二點
  - (c) 准國寶 數點
- (5) 漁業の盛なること
- (6) 松茸の收穫多きこと
- (7) 入江多きこと
- (8) 五萬圓貯金の設置されたること
  - (a) 口數 甲 二十九人 (二百一圓九十六錢)
  - 乙 三十人 (二百一圓九十六錢)
  - 丙 百七十七人 (百五十五圓七十錢)
- (b) 使途(利子のみ)

缺陷

- (1) 土地偏狹なること
  - (2) 山林原野の割合に耕地少きこと
  - (3) 道路狹惡なること
  - (4) 交通の便惡きこと
  - (5) 副業の産額少きこと
  - (6) 村税の高率なること
  - (7) 娛樂設備なきこと
- |     |        |
|-----|--------|
| 一萬圓 | 子弟教育基金 |
| 一萬圓 | 活動調節基金 |
| 一萬圓 | 災害復興基金 |
| 一萬圓 | 病傷治療基金 |
| 一萬圓 | 老年扶助基金 |
| 五千圓 | 幼年養育基金 |

作業学校の施設と經營

- (8) 養魚の振はざることに
- (9) 農業經營の拙劣なることに
- (10) 遊覽設備に缺くることに
- (11) 衛生設備の不完全なることに
- (12) 消防設備の不完全なることに

2、村 治 上

長 所

- (1) 純農村で職業一定せることに
- (2) 貧富の懸隔少く、概して、生活が安定してゐることに
- (3) 温順にして親切なることに
- (4) 上下融合村治圓滿なることに
- (5) 小作問題なきことに
- (6) 各種團體との提携よきことに

缺 陥

- (1) 一般に利己的である
- (2) 部落根性が強い
- (3) 言語卑俗にして、禮儀とよのはず
- (4) 研究心なし
- (5) 向上進取の氣性に乏しい

3、學 校 教 育 上

長 所

- (1) 無邪氣である
- (2) 従順で勤勉である
- (3) 出席歩合良好である
- (4) 貯蓄心に富む
- (5) 勞作を好む

缺陷

- (1) 禮儀作法正しくない
- (2) 放從なり
- (3) 自學訓練充分ならず

4、對策

- (1) 機運促進事項
  - (a) 道路改修 (縣道、村道)
  - (b) 交通機關の開設 (電車、自動車)
  - (c) 電話架設 (役場、學校)
  - (d) 湖上運輸の發展 (天津、彦根、八幡、高島)
  - (e) 遊覽設備の完成及び宣傳 (長命寺、伊崎)
  - (f) 村基本金造成
  - (g) ガソリンポンプの購入

- (h) 衛生設備の充實
- (2) 獎勵事項

- (a) 原野開墾 (葭地)
- (b) 家畜飼養 (牛、馬、豚、鶏)
- (c) 長男以外の出稼 (人口調節)
- (d) 二毛作 (麥、菜種、紫雲英)
- (e) 葭の加工工場を設置 (機械工業組合にて)
- (f) スポーツ (民衆運動)

- (3) 研究事項
  - (a) 蘭の栽培法加工法及び販路 (副業)
  - (b) 葭の加工法及び販路 (副業)
  - (c) 土産物 (長命寺)
  - (d) 漁獲物の加工及び販路 (魚類)
  - (e) 農業經營法の改善

第六 作業學校の延長たる實業補習學校の經營

### 四 学校の組織

#### 1、修業年限

男子部	
前期	二ケ年
後期	三ケ年
研究科	四ケ年
女子部	
前期	二ケ年
後期	三ケ年
研究科	一ケ年

#### 2、教授期節及び日数

##### (1) 男子部

夜間 四月、九月、十月、一月、二月、三月  
 前後期 月曜、火曜、木曜、金曜、土曜  
 研究科 毎水曜、研究科故教練は別に之を定む  
 實習指導のため、毎月一回以上晝間召集

##### (2) 女子部

晝間 毎日、四月、五月、六月、七月、八月、九月、十月、十一月、十二月、一月、二月、三月

#### 3、學科課程表及び毎週教授時数

##### (1) 男子部

修身	學科目	學年		期
		前	後	
一	道徳ノ要旨	數時週	第一・二學年	本
		數時週	第一・二學年	後
一、五	公民ノ心得 道徳ノ要旨	數時週	第三學年	科
		數時週	各學年	研
二約	同上	同上	同上	究
同上	同上	同上	同上	科

實業實習	體操	實業	地理歴史	理科	數學	國語	本		研究科
							前期	後期	
時不定	二年 時不定 體操、 競技、 教練	二 農(工、商、水) 業大意	一 日常生活ニ關係 アル理科教材	一、五 物理、化學、博物 國史、日本地理、 外國地理、歴史	三 算術(筆算) 珠算	三 普通文ノ講讀 作文	同上	同上	同上
同上	二年 時不定	四 地方産業ニ適切 ナル事項	同上	同上	一、五 實用數學 珠算	三 普通文ノ講讀 作文	同上	同上	同上
同上	八年 時不定	四 同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
同上	一年 時不定	二 同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

(2) 女子部

學科日	學期	本		研究科
		前期	後期	
週時數	各學年	週時數	各學年	週時數
一ヶ年間				

(3) 教科書

實業	裁縫	家事	體操・音樂	數學	國語	修身
二	一五	二	二	三五	三五	二
地方的産業ノ大要	普通衣服ノ裁方、縫方、繕方	家事科ノ基礎タル理科教材	體操及遊戲、單音唱歌	算術(筆算、珠算)	普通文ノ講讀、作文及習字	道德ノ要旨、作法
二	一六	二	二	三	三	二
地方産業ニ適切ナル事項	同上	衣、食、住、育ニ關スル事項	同上	實用算術、珠算	普通文ノ講讀、作文	道德ノ要旨、公民ノ心得
	一四	二				二
	同裁縫、上、手藝	同上				同上

學科日	教科書名	著者
修身	青年修身書	藤井健治郎

公民	新制公民教本	湯原元一
讀方	現代青年補習讀本	八波則吉
算術	前期 實際化する現代數學 後期 新主義實業補習數學教科書	赤澤伊與吉
地理	青年訓練地理教科書	青年訓練研究會
歴史	青年訓練歴史教科書	同
理科	青年訓練理科教科書	同
農業	作物、園藝、土壤、肥料、産業、畜産、林業、農業、經濟ノ各教科書	滋賀縣教育會
家事	實業補習學校家事教科書	寶文館編輯所

## 五 教 授

### 1、本校教育の目的

實業補習學校並に青年訓練所規程の本旨に基き、強健にして堅實善良なる中堅農村公民を養成するを以て目的とす。

### 2、教育方針

- (1) 本村全體が本校なりとの信念の下にすべての機關と連絡して本村の事情に最も適切なる實際的教育を實施する。
  - (a) 本村自治振興の企劃
  - (b) 本村經營に對する自覺の喚起
  - (c) 本村農業經營の合理化
  - (d) 本村文化充實の向上
  - (e) 本村に對する着實穩健なる思想を涵養すること
- (2) 農村を理解して、趣味を有し、健實にして、實行的なる農業者を養成せんとす



る。

- (a) 農業に關する智能を授くること
- (b) 農業に對する改良向上創造的の意氣を養ふこと
- (3) 國家社會の組織を理解し、自治自律を本として、協力一致し他の爲に進んで  
献身奉仕する自覺ある有爲の公民を養成せんとす。
  - (a) 國家の組織並に體系を理解せしめ、國民生活の眞義を知らしむること
  - (b) 我が國體の眞義を理解せしめ、皇室中心の思想を養ふこと
  - (c) 社會生活の眞義を理解せしめ、公民道德を會得せしめること
  - (4) 穩健着實なる人生觀を以て常に自己の修養に努め、人格の向上を期し、圓滿  
純美なる品性を有する眞の人たらしめること
    - (a) 人生の意義は、努力と向上にあり、自己をより大きく、より廣く生かすに努  
むること
    - (b) 情操の陶冶に努め、純美なる品性を保持せしむること
    - (5) 特に實習中心主義を標榜し、勞作尊重の美風を自得せんとする

- (a) 勞働の神聖を鼓吹し、其の幸福快味を自得せしむること
- (b) 實習作業に努力せしめて協同一致の精神を涵養すること
- (c) 理論を實際に應用せしめ、理解を容易にせしめ、且實地技術の練習を計る  
こと
- (d) 自然に親しみ、田園趣味を養ふこと

### 3、教授方針

- (1) 郷土の實際に出發し、實際に歸結すること
- (2) 實習、實驗を尊重し、創造發見の能力啓培に留意すること。而して、創造發見  
は永遠なるものなれば、みだりに斷定せざること
- (3) 常に生徒の心理を理解し、境遇に同情し、興味あり、活氣あり、實際的なること
- (4) 教材はなるべく、一日一段落を完結せしむるを本體とすること
- (5) 常に結果を檢察反省して研究の資料に供し、以てその効率を益々偉大なら  
しむること

#### 4、教材の選擇

- (1) 時勢の進化に伴ふ活教材を選ぶこと
- (2) 實際生活に適切なる教材たること
- (3) 特に郷土的教材を基礎として精選し意義あらしむること
- (4) 季節に留意し、實驗實習との聯絡を便ならしむること
- (5) 各教材互に連絡せしむること

#### 5、教授上の注意

- (1) 教材の調査研究に努めて、取捨選擇に注意し、主眼點を明にすること
- (2) 準備を充分整ふこと
- (3) 生徒の人格を認め之を尊重すること
- (4) 自學自習自發的態度により研究せしむること
- (5) 教師は學理に又實際に精進すること

(6) 教師は常に人格修養に努むること

#### 6、各科教授

##### (1) 修身科

- (a) 道德の陶冶に努むること
- (b) 公民的陶冶に努むること
- (c) 思想の善導に努むること
- (d) 農村美風の啓培に努むること
- (e) 穩健着實なる人生觀の養成に努むること
- (f) 女子のためには、婦徳の涵養に努むること

##### (2) 國語科

- (a) 讀書能力及び發表能力の啓培を主眼とし、文學趣味の養成と美的情操の陶冶に努む
- (b) 文章を通じて、作者の思想をうかゞはしめ、譯文即ち理解の力を養はしむ

(c) 一日一文主義を本體とすること

(3) 數學科

既に習得したる事項を基礎として、更に進んで日常生活に於て必要なる實用的計算に習熟せしめ、かねて數理的頭腦を練磨し思考を正確ならしめること

(4) 理科

通常の天然物自然現象に關する知識の一般を得せしめ、是等相互及び人生に對する大要を理解せしめ、日常生活並びに職業生活に資せしむると共に自然を愛する心を養ひ、工夫創作利用の念を養ふ。

(5) 地理、歴史科

我が國體の尊嚴現在に於ける國勢の大要を理解せしめ、愛國心を養成せんとする。

(6) 體操、教練科

全身の圓滿なる發達を計ると共に規律共同の精神を養はんとする。

(7) 農業科

實習中心主義に基き勞力を重んじ、將來の自作農たらんとする健全なる農民の養成を主眼とし、作物、家畜の愛護者たるべく、而かも常に研究向上的態度を保持し時代の流れに伴ふ農民を養成せんとする。

(8) 裁縫科

裁縫に關する知識技能を練磨し、通常衣類の裁縫に習熟せしめ、尙時代の趨勢に伴ふ洋裁縫及び手藝を習得せしめ、かねて節約利用の習慣を養ふを目的とする。

(9) 家事科

家事に關する知識技能を習得せしめ、之を實際生活にまで導き家事的趣味の向上を計り、冗費力を省かしむ。

(10) 音樂科

情操陶冶、藝術趣味の涵養に資せんとする。

## 7、教授の方法

(1) 方法

- (a) 實際的郷土的教授要目の制定
- (b) 教授用具設備の充實
- (c) 郷土調査及び教育是の確立
- (d) 教授法及び教材研究
- (e) 教育案の作製

(2) 教法

- (a) 教授方針参照
- (b) 標語の重視
- (c) 謄寫刷の利用

(3) 練習

- (a) 學理の實際應用
- (b) 研究物提出
- (c) 農談會

(4) 課外教授

- (a) 講習會の開催
- (b) 視察及び見學旅行
- (c) 講演會の開催
- (d) 圖書館の利用
- (e) 揭示及び表示

(5) 處理

- (a) 考査による結果講評
- (b) 巡視による結果論評
- (c) 展覽による結果講評
- (d) 品評會による結果講評

## 六 訓練施設概要

### 1、方針

修身公民科教授要目と相俟つて、熱烈なる愛と人格的感化により迷はざる健實なる農村公民たる勤儉力行の眞の人たらしめんとす。

### 2、訓練要綱

- (1) 生徒の自重自尊を高めて自覺心の喚起に努むること
- 自治、自修、自立、規律、實行

- (2) 共同生活の眞義を理解せしめんことに努む  
相互修養、公共心、責任尊重、協同一致
- (3) 自己を活かして、他のために奉公獻身の人たらしめんことに努む  
快活、尊王愛國、公正奉公、獻身崇祖
- (4) 労働の神聖と幸福とを玩味せしめ、勤儉力行の人たらしめんことに努む  
勤儉、忍耐、努力
- (5) 創造發見、改良進歩の人たらしめんことに努む  
觀察、思考、研究

### 3、訓練施設

すべての機會は即ち生徒訓練の好機なりとの信念の下に立脚して一切を訓育的に生徒の訓練を目的として施設をなす。

- (1) 生徒修養訓の設定  
各生徒に格言、和歌等座右銘を定め、日常の坐作進退の規範たらしめる。

### (2) 生徒自治團

生徒相互の修養及び協同心の涵養をはかり、なほ公民的訓練の目的を以て男子部全部を以て自治團體を組織する。

- (a) 事業
  - (イ) 村内各種の實態調査
  - (ロ) 各種の申し合せ
  - (ハ) 各種の統計
  - (ニ) 各種組合の研究
  - (ホ) 見學旅行
  - (ヘ) 親睦慰安會
  - (ト) 娛樂會
  - (チ) 農談會
- (3) 其の他の機會
  - (a) 儀式、祭日、記念日、地久節、偉人祭、御親閲、記念日
  - (b) 朝起會
  - (c) 敬老會
  - (d) 卒業生指導
  - (d) 奉仕作業
  - (e) 神社佛閣參拜

## 七 養護施設概況

男女青年の時代は、心身共に發育旺盛にして、一大變化を來すが故に之が指導には特に注意が必要である。

### 1、方針

深厚なる同情、愛情を以て先づ自己の體質を自覺せしめ、一つは體育衛生に關する知識を附與して、自覺を促し、一つは實行の指導に努めて善良なる習慣を養ひ、活動的精神を鼓舞するにある。

### 2、實施

#### (a) 知的方面

人體生理衛生に關する知識の附與  
運動生理衛生に關する知識の附與  
自覺促進

#### (b) 實行指導方面

共同的 教練、體操 作業的 實習、作業  
競技的 角力、競技 消極的 身體検査  
器械的 肋木、横木、バツク、鐵棒  
鍛練的 劍道、遠足、登山、水泳、冷水磨擦

#### (c) 結果の調査

身體検査 運動會 バツチテスト

#### (d) 消極的方面

(a) 知的方面  
性に對する理解と自覺  
保健に關する心得  
飲酒喫煙の害  
授けて善良なる習慣の養成

(b) 實行方面

寄生蟲の驅除

トラホーム治療

## 八 趣味娛樂に關する施設

### 1、方針

高尚なる趣味を涵養し、美的情操の陶冶をなすと共に、溫雅なる感情の持主たらしむる。

### 2、施設

- (1) 文藝、文章、和歌、俳句、冠句
- (2) 辯論會
- (3) 謡曲及び生花
- (4) 庭球、ピンポン及び一般スポーツ
- (5) 旅行
- (6) 草花栽培

## 九 實習と實驗

### 1、目的

既に學科教授に於て授けたる學理の應用を實地に表明する方法を指導するにある。

### 2、實習の種類

本校は、本村農業の實狀に徴し、左の實習を課す。

- (1) 耕種實習
  - (a) 普通作物の栽培
  - (b) 特用作物の栽培
  - (c) 園藝作物の栽培
- (2) 養蠶實習

作業学校の施設と経営

- (a) 桑樹栽培
  - (b) 蠶種検査の大體
  - (c) 蠶兒の飼育
  - (d) 蠶病消毒
- (3) 畜産實習
- (a) 養鶏
  - (b) 養兔
  - (c) 養豚
  - (d) 養緬羊
  - (e) 養鯉
  - (f) 養鳩
- (4) 林業實習
- (a) 林樹苗圃
  - (b) 林地測量植林手入
  - (c) 施業案の大體
  - (d) 桐樹栽培
  - (e) 竹林造成法
  - (f) 其他
- (5) 病蟲害防除實習
- (a) 防除劑の調製
  - (b) 防除の實施
  - (c) 其他
- (6) 肥料實習

- (a) 堆肥製造
  - (b) 蠶沙の處理
  - (c) 家畜家禽尿の處理
  - (d) 綠肥、青草の處理
  - (e) 肥料の鑑定
  - (f) 肥料試驗
  - (g) 其他
- (7) 土地測量實習
- (a) 測量
  - (b) 製圖
  - (c) 面積算出
  - (d) 其他
- (8) 農業土木實習
- (a) 土地改良(主として排水)
  - (b) 其他
- (9) 農具使用實習
- (a) 在來農具
  - (b) 改良農具
  - (c) 動力農具
  - (d) 其他
- (10) 農産加工實習
- (a) 菓細工
  - (b) 竹細工

第六 作業学校の延長たる實業補習學校の經營



- (c) 製茶
- (d) 漬物
- (e) 果實加工
- (f) 其他
- (11) 審査實習
- (a) 立毛
- (b) 生産物
- (c) 調査物
- (d) 其他
- (12) 標本採集實習
- (a) 作物標本
- (b) 病蟲害標本
- (c) 其他
- (13) 氣象觀測實習
- (a) 風
- (b) 溫度
- (c) 濕度
- (d) 晴雨
- (e) 其他
- (14) 調査實習
- (a) 自家農業狀態
- (b) 村內農業狀態

- (c) 其他一般的
- (15) 販賣購買實習
- (a) 生産物販賣
- (b) 種子肥料の購入
- (16) 土地調査實習
- (a) 土壤の種類
- (b) 耕土の深淺
- (c) 底土性質

## 十 實習組織

### 1、學校實習

實習各般の目的を達成するに便なると共に、指導の徹底を期し得るは勿論、部落及び家庭實習遂行の準備ともなる。學校の設備とも相俟つて前項の實習項目中適宜選擇して課するものとする。

## 2、部落實習

各部落生徒の協同により、自治的の經營をなさしめ、各部落に於ける經濟的經營の研究と協同經營との練習をなさしめ、かねて各部落生徒の協同團結を強固ならしむるを要旨とし、左記實習項目中適宜選擇し課するものとす。

- (a) 米麥作及び綠肥の栽培
- (b) 桑樹栽培
- (c) 林業
- (d) 蔬菜及び果樹の栽培

但し、部落實習は生徒の自發的努力に俟つて設置する。

## 3、家庭實習

生徒の獨立經營に依り、合理的經營の練習及び、研究をなさしめ、經營法の改善をはかり、かねて本村農業の開發をなすを以て要旨とし、前項の實習項目中より、校下の農業の推移と家庭設備の關係を考慮し、本村主農業を主體として課するものとす。

する。

## 4、特別實習

先進地に旅行し、實地見學して技術を體得せしむるものとす。

## 5、實習の配當

本校は實習の圓滿なる遂行をなさんがため、本村の實狀に徴するは勿論生徒の知識程度、家庭の事情等をも斟酌して左の方針のもとに配當する。

- (1) 學校實習 前期より後期に至るまで
- (2) 部落實習 男子部後期及び研究科
- (3) 家庭實習 全生徒
- (4) 特殊實習 主として研究科

但し、學年の進むに従つて家庭實習を主とし、左の程度によるものとする。

- (a) 前期——蔬菜栽培、養蠶、藥細工
- (b) 後期——稻作及び裏作、蔬菜栽培、養蠶、藥細工、蘭、大麻

(c) 研究科——同前の練習及び研究、土木實習作用の種類

(1) 普通作物 稻、麥、菜種

(2) 蔬菜類

大根、蕪菁、白菜、甘藍、玉葱、葱、越瓜、西瓜、南瓜、蒴甜瓜、胡瓜、チミヤ、トマト、體菜、日野菜

(3) 果樹 梨、柿、桃、葡萄、梅、櫻桃、栗、無花果

(4) 草花類

菊、ダリヤ、鐵砲百合、フレーム栽培、西洋草花、其の他一年草、二年草、宿根草、球根類

(5) 郷土的特殊なもの

蘭、楮、むべ

### 6、實習地の種類

(1) 學校實習地

(a) 水田 九十坪

(b) 蔬菜園 六百十七坪

(c) 草花園 五十坪

(d) 果樹園 七十六坪

(e) 桑園 三十坪

(f) 苗圃 二十三坪

(2) 家庭實習地

(a) 面積

水田 一五〇坪以上(男)

畑 三〇坪以上(男女)

(b) 實習の種類

(イ) 男生 蔬菜、稻、麥、菜種、果樹、蘭、麻、疊表、花卉、半促成栽培、家禽、家畜、養鯉

(ロ) 女生 蔬菜、花卉、家禽、家畜

## 十一 各種團體との連絡

### 1、農會、農事試驗場

(1) 本校生徒及び卒業生の各種の調査

(2) 農會と聯合して品評會、講演會の開催

第六 作業學校の延長たる實業補習學校の經營

- (3) 種苗類の配布申請をなす
- (4) 農業上に關する打合會
- (5) 農業上の奨励事項

## 2、青年團

- (1) 青年團各種事業との連絡提携
- (2) 支部長をして入學及び出席督勵をなさしめる
- (3) 青年團部落會實習地の指導

## 3、處女會、主婦會

- (1) 青年團に同じ

## 4、信用組合

- (1) 貯金
- (2) 農産物の共同販賣
- (2) 肥料の共同購入

## 5、在郷軍人會

- (1) 教練科囑託教員の選擇依頼
- (2) 入退營兵の送迎
- (3) 軍隊慰問

## 6、篤農家

- (1) 篤農家の講話をきかしむ
- (2) 生徒をして訪問せしめ、講話及び實地指導を受けしむ
- (3) 優良種苗種卵の配布、交換を受く

## 7、消防組

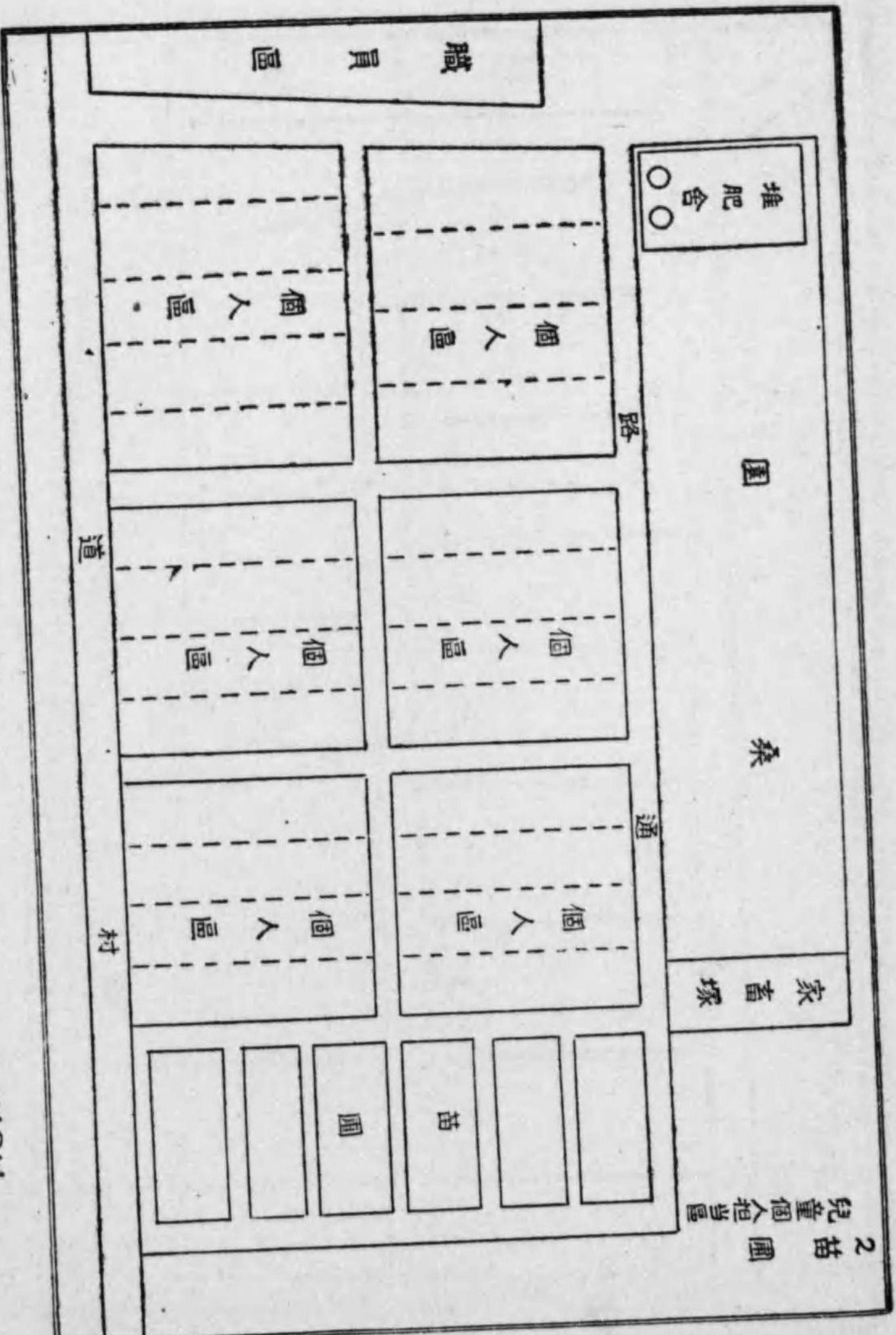
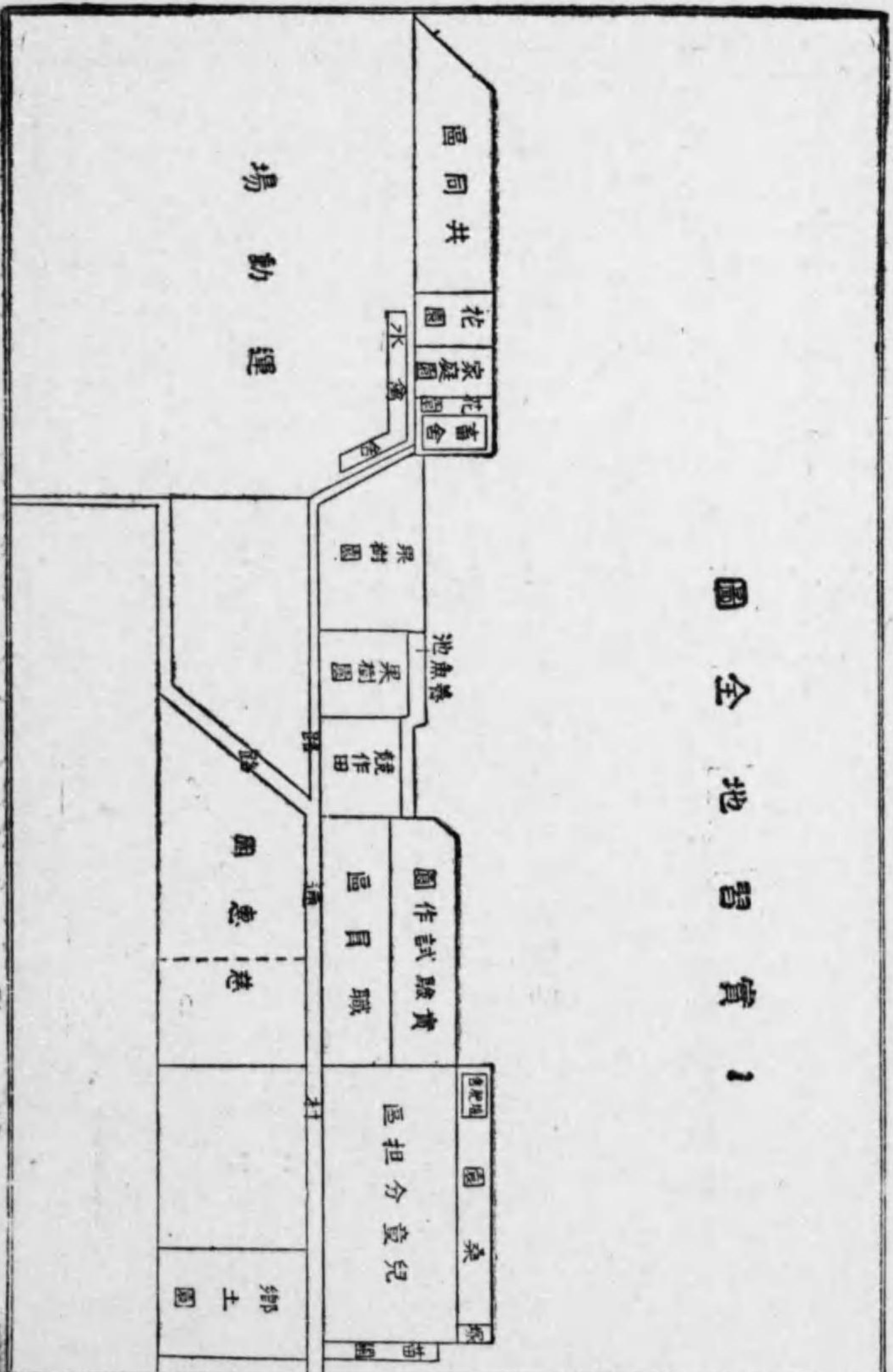
- (1) 私設消防組の組織
- (2) 非常時の消防組援助

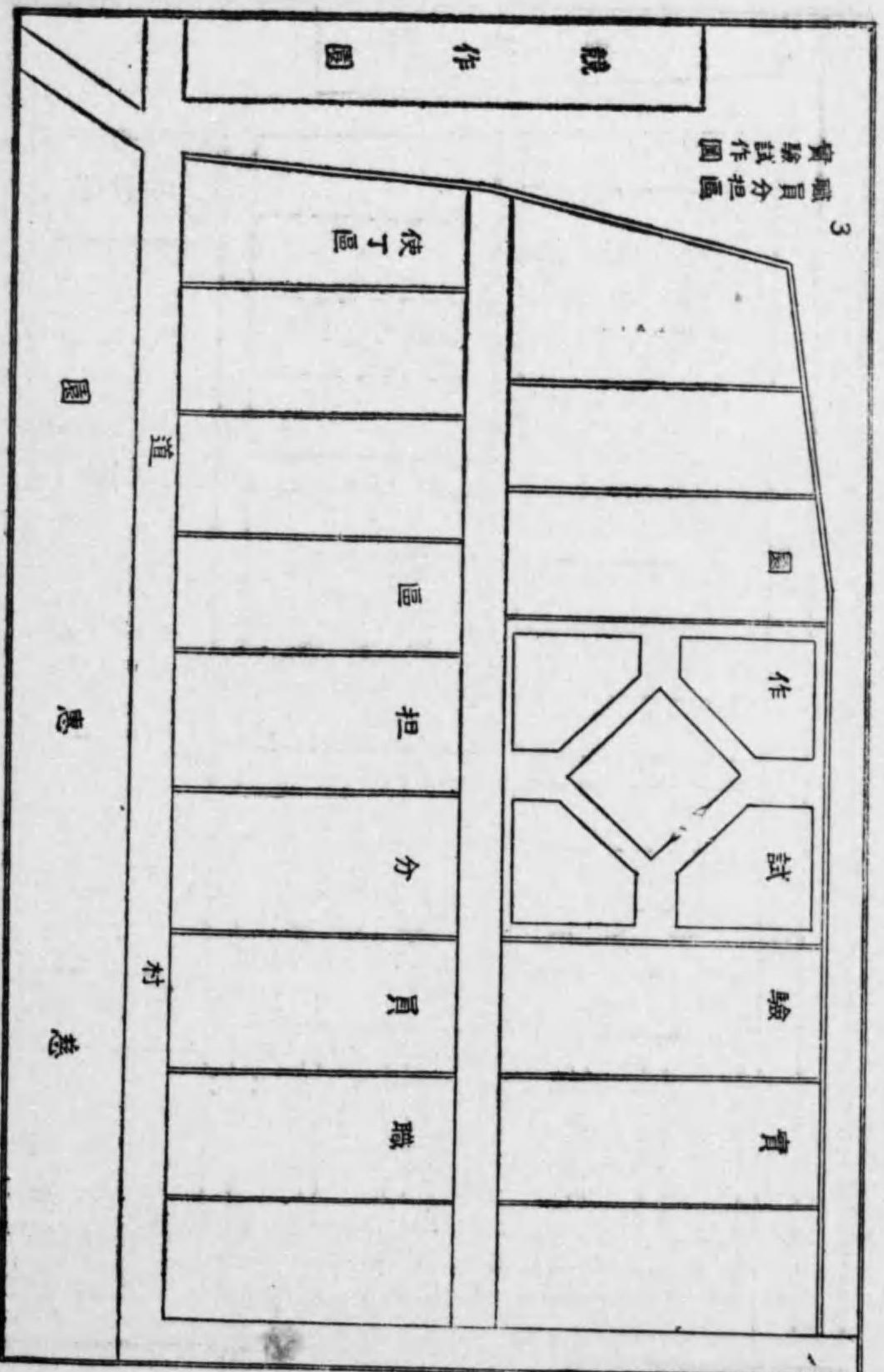
## 8、各年次同級會

- (1) 年一回學校實習地の實習補助
- (2) 農作物特別廉價販賣

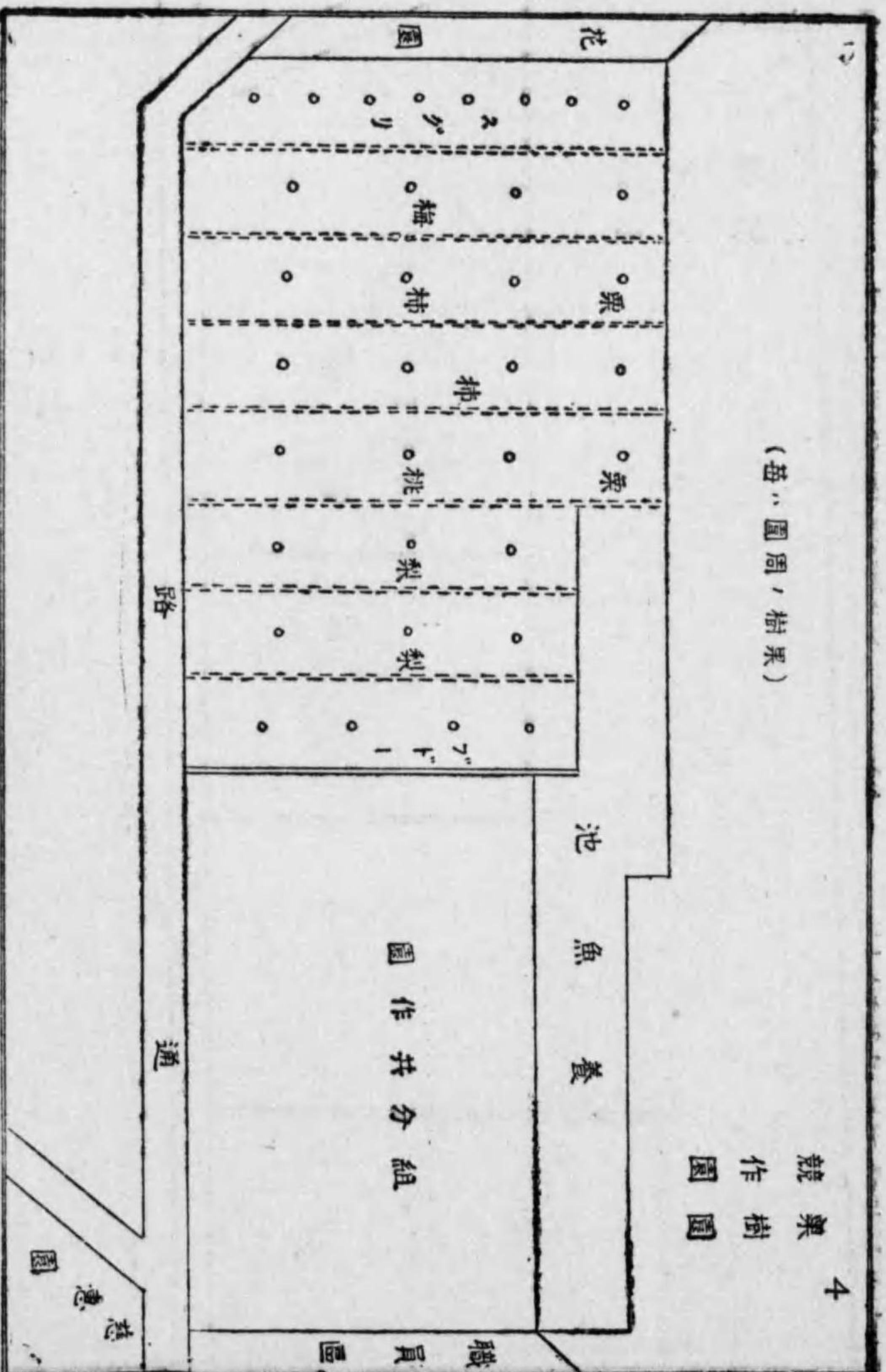
# 十二 實習地略圖

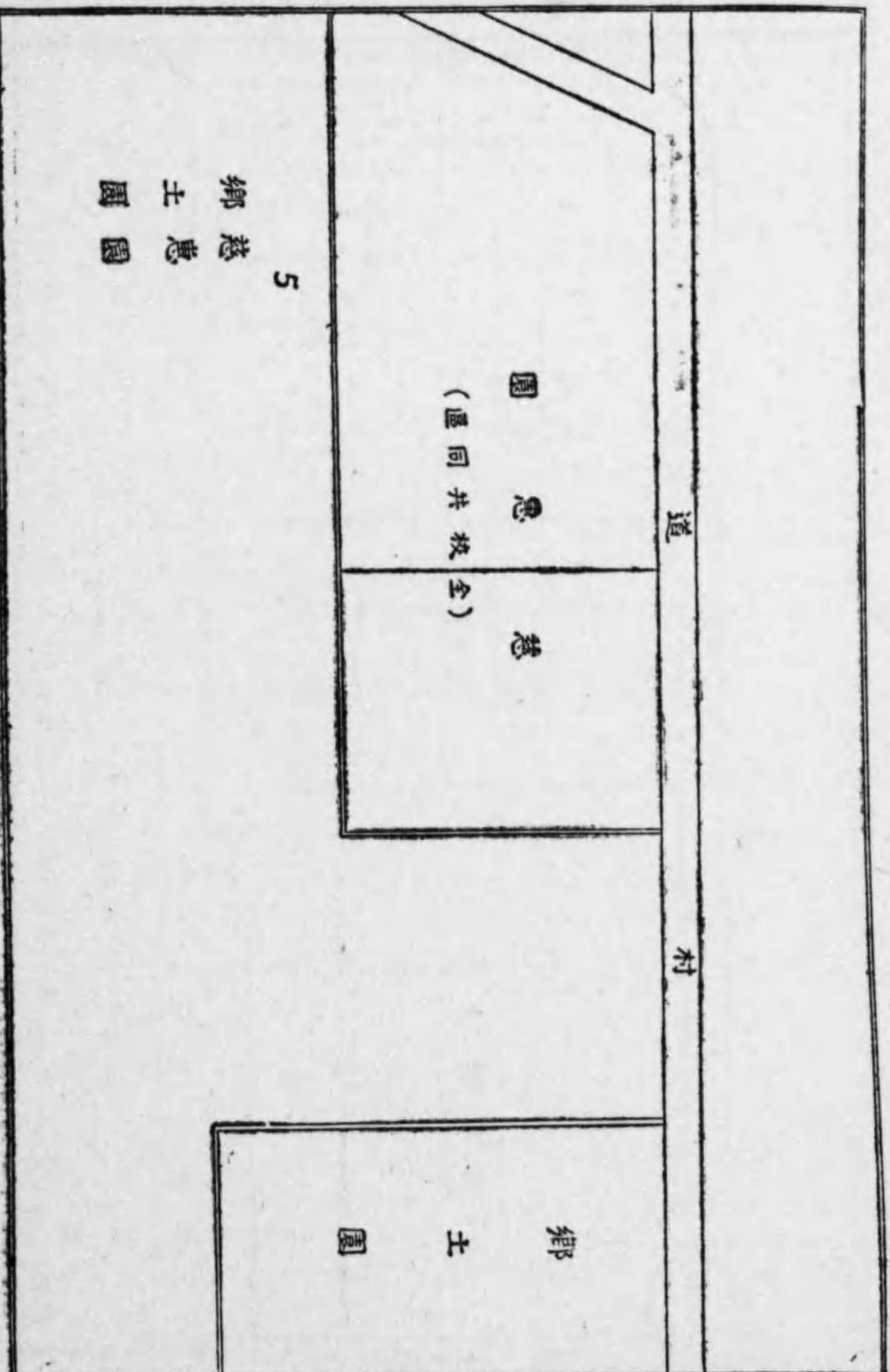
圖 全地習實 1



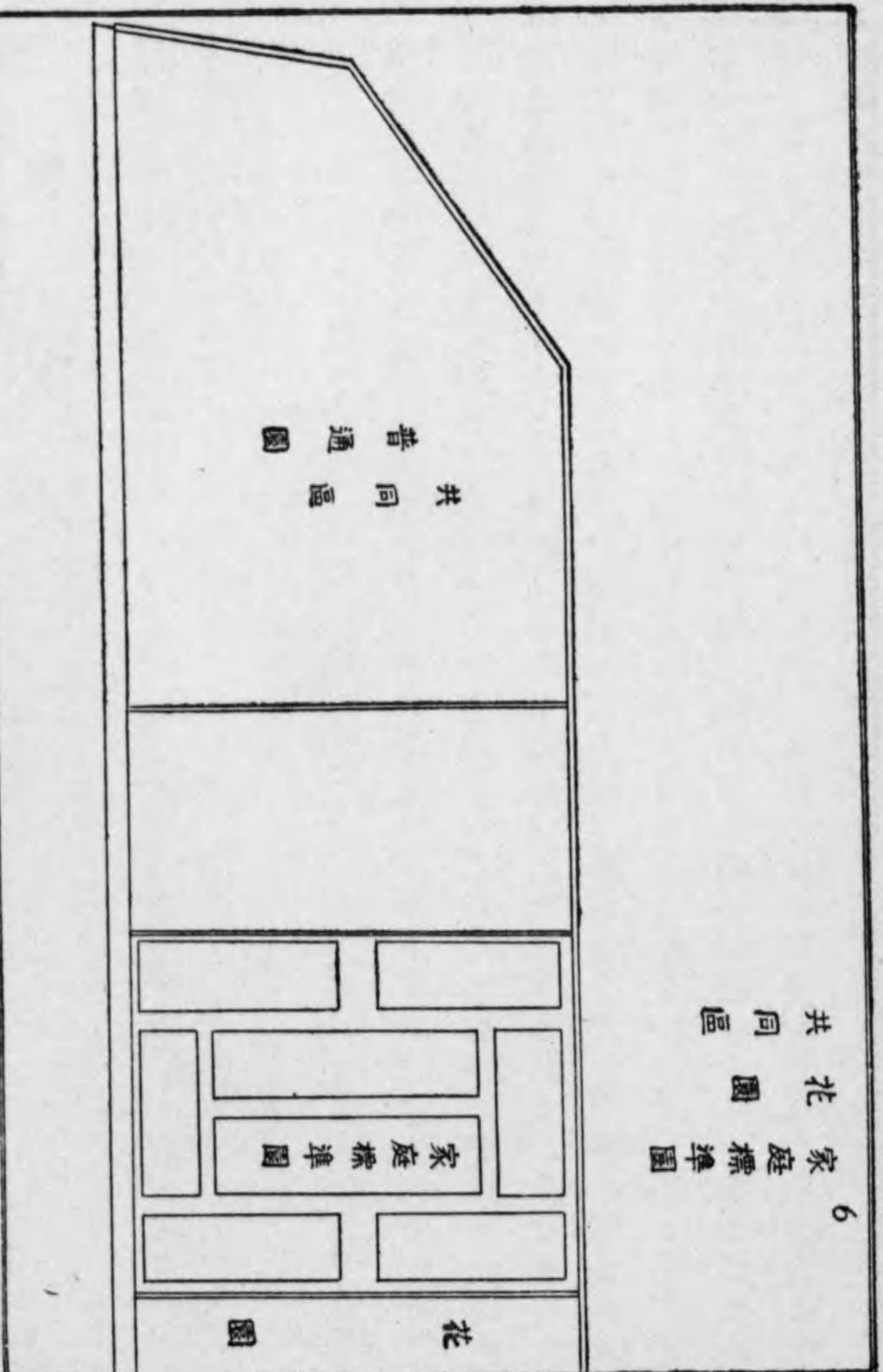


(苗、園周、結果)





5  
郷土園  
郷土園



6  
家庭標準園  
花園  
共同區

## 卷 末

(各雜誌新聞其の他にかゝげられる本校の教育状態の中主なものを抄録する。)

## 一、郷土科學(第九號)

尾 高 豊 作 氏

## (一)

東海道線近江八幡驛に着くと、島小學校の長谷川、栗下兩訓導の顔が見えた。六月一日早朝は空よく晴れて、汽車の窓から見えかくれして居た。琵琶湖から吹きくるなごやかな風がプラットホームの雑踏の中にも感ぜられた。今日から大津の師範學校で滋賀縣初等教育研究會主催の郷土教育發表大會が開かれると言ふので栗下訓導は島小學校を代表してこれから出席されると言ふ。私は、長谷川訓導の案内で直ちに島小學校に向つた。昨秋愛知第一師範の大會の折、初めて訪れた際の記憶がまた路傍の風光に蘇へる。蘆荻の茂る湖畔沿ひに夢のやうに浮ぶ沖の島を遠望し乍ら漸く學校の門前に着く。

去年まで無かつた郵便局が新しい看板を出してゐる。神田校長に久々に面會、應接室には參觀者が毎日の様にあるので、テーブルの上に雜誌「郷土科學」を始め來客に備へる書類が色々置いてある。

高等一、二年の授業を見る。教室の壁に

一、新しい村を建設せんがため、先づ村を研究し、すくなくも役に立つ人へと志しませう。

一、學校、學級、部落自治會の發展の爲努めませう。

と「私達の本學年の信條」が筆太にはり出されてゐるのが目につく。第三時間、尋六、讀方の時間だ。第九課植林他の教室から「島村の唄」の合唱が聞える。

農業實習に中心を置いて、農村に即した教育を心がけて居たこの島村の小學校が、村の中心となつて産業組合その他の仕事にまで指導者的位置に邁進しつゝある全村協力一致の閃めきが、學校の隅々にもあふれて居るのが嬉しい。

## (二)



午後日當りのよい校庭に、高等一、二年の女生徒が、輕裝な洋裝のユニホーム姿で體操やフットボールの遊戯に嬉々としてゐる。

さうかと思ふと、同男生徒は第一班から第十班までの組を別けて、作業服姿甲斐々々しく農業實習を始める。新らしく就任された小川先生が熱心に指導される。茄子の定植と緬羊の敷藁と草刈の仕事だ。鎌や鋤が農園にキラ／＼光る。

「慈惠園には西瓜の苗が植ゑてある。どこへ茄子を定植するのかわからない。」と皆が言ふ。

「キツト郷土園だよ。」と正六さんと言ふ兒が一人でサツサとその方へ急ぐ。先生にきいたらやはり正六さんの勝ちだ。みんな郷土園に集る。

「先づ村を知れ」と書いた棒材が立つて居る。郷土園と言ふのは九十坪ばかりある。生徒は畦に一列に並んで先生の話を熱心にきいたのち、各班手別けして、麥の根元に鋤を入れたり、葱を引きぬいたりする作業を開始する。

「君の家ではどんな風に耕やしてゐますか。……植方が悪いと茄子が「マフ」から成るべく固いところへ植へなさい。……餘り狭くなると高くばかり延びて、枝がはら

ないし實のりが悪いよ。」

かうして、各自作業は次から次へ運んで行つた。午後の日が温く照りつける學校園の端には罌粟の花が眞赤に群がり咲き、その直ぐ隣りには本物の農夫がシキリに畑を耕がしてゐる。

放課後、全校の掃除が終ると、生徒は皆んな歸つて行つた。……云々。

## 二、近代教育(六月號)

志 垣 寛 氏

五月十一日

今日も亦微雨。近江八幡に降り、自動車にて行く事一里半、島小學校を訪ふ。訓導長谷川、栗下の二氏は先に一面の識がある。こゝは近時頼に名をあげ來つた郷土教育の模範學校、わけてその農業實習の狀況は感服に價する。……云々。

## 三、大阪朝日新聞(昭和六年一月八日)

初春の和やかな陽を浴びた校庭をめをと連れ、羊がのどかに遊びたはむれて

ある——児童の牧畜思想啓發と農家の副業奨励のため蒲生郡島小學校では、昨年四月二頭の羊を譲うけ校舎の一隅に牧舎を建て學童の手で、試験的に飼養してゐるが、好成績で丸々と肥つてゐる。

毎朝當番に當つた生徒は前垂がけで羊舎の掃除をしたり附近の田圃を馳けづり廻つて雑草をかき集めて世話を焼きまめくしく立働いてゐる。

神田校長は

生徒自らの労働によつて、次第に生長して行くのを見て生徒達は限りない喜びにひたり知らず知らずのうちに小さな魂に動物愛と牧畜思想の啓發にもなります。……云々。

#### 四、大阪毎日新聞(昭和五年七月)

全國にまだない苦心の郷土讀本なる。

郷土に關係あるものは記事にあるひは寫眞にこれを悉く網羅し郷土資料室と相まつて郷土を認識せしめんとする材料たらしめんとしてゐる。……云々。

#### 五、新愛知新聞(昭和六年一月十日)

島小學校では、瀕死の經濟狀態の下に嘔ぎ苦んでゐる農村に好適の副業とされてゐる緬羊、豚を飼育して小學生に之を扱はせ好成績をあげてゐるので、同村一般農家に普及すべく校長以下意氣込んでゐる。……云々。

【書育教の書圖治明】

文部省實業補習教育主事 岡 篤 郎 先生著	農業補習 學校の經營 <b>郷土調査の理論と實際</b>	四六判總クロ 定價 金三圓 郵税 金十四錢
神奈川縣女子師範前教諭 田島體験學校長 山崎 博先生著	<b>新時代の郷土教育</b>	四六判總クロ 定價 金二圓 郵税 金十四錢
和歌山縣師範學校 附屬小學校編纂	<b>新郷土教育の實際</b>	四六判總クロ 定價 金二圓 郵税 金十四錢
滋賀縣 島小學校編纂	體驗と信 念に基く <b>郷土教育の學習と實踐</b>	四六判總クロ 定價 金二圓 郵税 金十四錢
滋賀縣 島小學校編纂	郷土の調 査及研究 <b>各教科郷土化の實際</b>	四六判總クロ 定價 金二圓 郵税 金十四錢
京都府庵我小學校長 公手喜代史先生著	教育の 地方化 <b>田園小學校の新生活</b>	四六判總クロ 定價 金三圓 郵税 金十四錢
神奈川縣女子師範前教諭 田島體験學校長 山崎 博先生著	研究と 批判 <b>郷土教育の再吟味</b>	四六判總クロ 定價 金二圓 郵税 金十四錢

郷土教育參考書

【呈進代無録目書圖】

昭和七年二月二十日 初版印刷  
 昭和七年三月一日 初版發行

生産作業學校の施設と經營 (奥付)

定價金貳圓參拾錢

著作者 栗下喜久治郎

發行 東京市京橋區入舟町五丁目一番地 藤原惣太郎

印刷者 東京市芝區神明町三十番地 山本五平



發行所 東京市京橋區入舟町五番 振替東京一八五一三番 明治圖書株式會社  
 賣捌所 東京 林六合館 大阪 柳原書店  
 名古屋 川瀬書店 久留米 菊竹金文堂 佐賀 大坪惇信堂

253  
558

終